

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

To all Rotary members in RID2840



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

To all Rotary members in RID2840

CONTENTS

ガバナー就任のご挨拶	02
プロフィール	05
RI 会長プロフィール	05
ガバナープロフィール	06
ガバナーエレクトプロフィール	07
ガバナーメッセージ	
「母子の健康（Maternal and Child Health Month）」に寄せて	08
各種報告	
ガバナーノミニー決定のお知らせ	11
青森県東方沖地震支援金についてのご報告	12
クラブリーダーシップ・ラーニングセミナー	13
クラブ管理運営セミナー	31
ぐんま伊勢崎ロータリークラブ加盟認証状伝達式および懇親会	32
お知らせ	
2026-2027年度「卓話・研修 出前サービス」実施のご案内	33
2026-2027年度 ガバナー公式訪問要領・ガバナー公式訪問日程表	36
2026-2027年度 地区主要行事予定表	40
2026-2027年度 周年行事・IM 予定表	43
コーディネーター NEWS	44
出席報告・My Rotary 登録率	48
新会員紹介	50
訃報	51
新会員入会実績報告（5 月末日現在）	52
ガバナーより一言「2025-2026 年度を振り返って」	53
ガバナーより一言「2026 台北国際大会に参加して」	55
ガバナー月信の表紙について	61
ガバナー事務所よりお願い	62

ガバナー就任のご挨拶

地区内クラブ会長・幹事の皆様をはじめ、会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃よりロータリー活動への多大なるご尽力とご理解をいただき、心より感謝申し上げます。

はからずも、私は2年続けてガバナーという大任を仰せつかることとなりました。

前年度、私はガバナーとして「それぞれの経験や実践を積み上げることの必要性」を訴えさせていただきました。二年目のスタートにあたり、前年度から何を積み上げ、何を加えるべきか。模索する中で私が行き着いた確固たる答え、それこそがロータリーを、そして各クラブを徹底的に「開く」ということです。

今、私たちが目指すべきあるべき姿は、4つの「開かれたロータリー」にあります。

【人に開く】・・・・・・・・・・会員一人ひとりの個性と意思を尊重し、誰もが対等に意思決定に関われる、風通しの良い組織へ。

【情報に開く】・・・・・・・・・・透明性を高め、共有し合う組織へ。

【地域環境（社会）に開く】・クラブの殻を破り、積極的に地域へ飛び出し、人々の意識をも変えるプロジェクトを展開する組織へ。

【地球環境に開く】・・・・・・・・より広い視野で持続可能な未来を見据える組織へ。

とりわけ「人に開き、地域社会に開く」こと。内へ、外へと心と組織を開放していくことこそが、今年度私たちが形にすべき最優先のミッションです。この「開く」という強い意志を胸に、皆様と共に新たな一歩を踏み出す所存です。どうぞ1年間、よろしくお願い申し上げます。

■ ビジョン声明にみるロータリーの使命

近年、国際ロータリー会長方は、ロータリーの目指すべき道を会長メッセージとして示されています。

マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ 2024-25 年度会長エレクト、フランチェスコ・アレツォ 2025-26 年度会長の“Unite for Good（よいことのために手を取りあおう）”、そして今年度、オラインカ・ハキーム・ババロラ 2026-27 年度会長が掲げる“Create Lasting Impact（持続可能なインパクトを生み出そう）”です。

ここで使われている“Unite（手を取り合う）”と“Lasting（持続可能な）”は、ロータリーのビジョン声明の核心にある言葉です。

【ロータリーのビジョン声明】

「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。」

このビジョン声明にこそ、ロータリーの理念と行動のすべてが凝縮されています。私たちは、身近な地域の課題に気づき、その現象の解決だけでなく「根本的な原因」にまで目を向け、行動していかなければなりません。

■ 私たちが目指す「平和」と「インパクト」の解釈

ロータリーの使命の根底には「平和の推進」があります。

平和学の創始者ヨハン・ガルトゥングは、戦争のない状態を「消極的平和」、貧困・差別・搾取などの構造的暴力もない状態を「積極的平和」と定義しました。また、アレツォ会長は、平和とは「信頼+理解+正義が存在し、それぞれの尊厳や文化的アイデンティティが保たれた状態」であると説かれました。

私たちの日常のクラブ活動、一つひとつの振る舞いこそが、この「一人ひとりの尊厳が保たれる平和」へと繋がっていると信じています。

そして今年度、ババロラ会長は「インパクト」を意識することを呼びかけています。

私はこのインパクトを、単なる数値的な成果ではなく、「プロジェクトに関わらなかった地域の人々の心の中にまで、気づきや思い、好ましい変化が広がること」だと解釈しています。

また、多様性を認め、否定せずにお互いを受け入れる姿勢（インクルーシブ）こそが、より歓迎的なクラブの土壌を作ると確信しています。

■ 2026-2027年度 地区スローガン「ロータリーを語ろう2.0+」

ロータリーの基本はクラブであり、クラブを形成するのは会員です。ロータリーの目的やビジョンを理解し、実践・行動することによって、私たちは真の「ロータリアン」へと成長していきます。そして、何よりも会員の皆様がロータリアンとしてのプライドを持つことが最も大切です。

そこで今年度、皆様がさらに深く語り合い、意識を共有できるよう、次の地区スローガンを掲げます。

「ロータリーを語ろう2.0+」

皆様に語り合っていただきたいキーワードは、「帰属意識」「インパクト」「ビジョン」「ミッション」「平和」の5つです。

スローガンに加えた「+（プラス）」には、以下の展開への願いを込めています。

- ・ 語り合うことから、一歩進んで「参加」へ
- ・ 単に参加を促すだけでなく、参加者の「意識を変える」働きかけへ
- ・ クラブ内にとどまらず、「地域を巻き込む広がり」へ

■ ガバナーとしてのコミットメント

ガバナーのミッションは、数値目標を強制することではなく、クラブと会員の皆様を鼓舞することです。

「会員を増やしてください」「寄付をしてください」とお願いするよりも、会員の皆様がクラブを愛し、仲間との出会いを喜び、活動を心から楽しむこと。これこそが本質であり、最も大切なことです。皆様がその価値に改めて気づき、充実したロータリーライフを送れるよう、私は語りかけ続け、環境を整えるサポートに徹します。

ババロラ会長はこう訴えています。

「自分を変えられれば、クラブと地区を変えられます。地区を変えられれば、地域社会を変えられます。そして、地域社会を変えられれば、世界で、地域社会で、自分自身の中で、持続可能なインパクトを生み出すことができます」

クラブを開き、地域を開き、そして私たち自身の心を開いて、次世代のためにより良い世界を築いてまいりましょう。1年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

RI 会長プロフィール

2026-2027年度 会長
トランス・アマディ・ロータリークラブ
ナイジェリア・リバース州

オンラインカ・ハキーム・ババロラ



1988年に大学で工学の学位を取得。

シェル PLC で要職を歴任するなど、石油・ガス界で 25 年間勤務し、4 大陸でプロジェクトを実施。

リビエラ・テクニカル・サービス社（石油・ガスインフラ供給会社）とリード・アンド・チェンジ・コンサルティング社（管理職コーチングと組織業績アドバイザーグループ）の 2 社を設立。

ババロラ氏が所属する専門職団体には、ナイジェリア技術者協会、ナイジェリア安全専門家協会、変革管理専門家協会などがある。経済・社会政策について政府に意見を提供する、故郷イバダン市の組織「ジェリコ・ビジネスマン・クラブ」のメンバーとなっている。

ローターアクターとして 10 年間活動し、1994 年からはトランス・アマディ・ロータリークラブの会員。2011-12 年度に地区ガバナー、2018-20 年度に RI 理事、2019-20 年度に副会長を務めた。2017-23 年度に End Polio Now：歴史をつくるカウントダウンキャンペーン委員会（2017-20 年度副委員長）、2013 年～現在はナイジェリア・ポリオプラス委員会（2016 年～現在アドバイザー）での役職を歴任。

妻ブレバさんと共にポート・ハーコート市に在住。冠名基金とアーチ・クランフ・ソサエティを通じてロータリー財団を支援。シェルターボックス UK の評議員としてボランティア活動も行っている。

ポリオのない世界のための地域奉仕賞、RI 超我の奉仕賞、ロータリー財団功労表彰状を受賞。

ガバナープロフィール

国際ロータリー第2840地区
2026-2027年度 ガバナー

竹 中 隆

高崎北ロータリークラブ



略 歴

生年月日 1961 年 12 月 24 日
住 所 群馬県高崎市
職 業 株式会社 竹中組 代表取締役社長
学 歴 早稲田大学 政治経済学部 卒業
公 職 2014 年～ 群馬経済同友会 幹事
2019 年～ 一般社団法人 高崎法人会 監事
2021 年～ 一般社団法人 群馬県経営者協会 常任評議員
2023 年～ 一般社団法人 群馬ニュービジネス協議会 副会長

ロータリー歴

【クラブ】 1996 年 7 月 高崎北ロータリークラブ 入会
2012-2013 年度 高崎北ロータリークラブ 幹事
2017-2018 年度 高崎北ロータリークラブ 会長
【地 区】 2004-2005 年度 社会奉仕・環境保全委員会 委員
2010-2011 年度 IT 委員会 委員
2011-2012 年度 地区副幹事（安藤ガバナー年度）
2019-2020 年度 国際大会推進委員会 副委員長
2020-2021 年度 国際大会推進委員会 委員長
2021-2022 年度 公共イメージ委員会 委員長
2022-2023 年度 国際大会推進委員会 委員長
2023-2024 年度 ガバナーノミニー
地区戦略計画委員会委員、地区三役員連絡会議議員
2024-2025 年度 ガバナーエレクト
地区運営連絡会議副議長
地区戦略計画委員会副委員長、会員組織強化委員会副委員長
2025-2026 年度 ガバナー

ロータリー財団

メジャードナー（レベル2）

ガバナーエレクトプロフィール

国際ロータリー第2840地区
2026-2027年度 ガバナーエレクト

湯 澤 晃

前橋北ロータリークラブ



略 歴

生年月日 1972 年 9 月 28 日
住 所 群馬県前橋市
職 業 弁護士
現 職 湯澤晃法律事務所 所長
学 歴 早稲田大学 政治経済学部 卒業
公 職 2010 年 4 月～2011 年 3 月 群馬弁護士会副会長
2014 年～2020 年 前橋市教育委員
2023 年 4 月～2024 年 3 月 群馬弁護士会会長，関東弁護士会連合会常務理事
他 群馬県男女共同参画推進委員，日本司法支援センター群馬事務所副所長，
群馬大学附属小学校 PTA 会長，同中学校 PTA 会長，
前橋市公務災害審査委員（現職），群馬県いじめ問題等対策委員会委員（現職）

ロータリー歴

【クラブ】 2008 年 1 月 7 日 前橋北ロータリークラブ 入会
2010-2011 年度前橋北ロータリークラブ 幹事
2019-2020 年度前橋北ロータリークラブ 会長
【地 区】 2022-2023 年度職業奉仕・国際奉仕・地域社会奉仕委員会 副委員長

ロータリー財団

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー 1 回

ガバナーメッセージ

「母子の健康(Maternal and Child Health Month)」に寄せて

一人ひとりの行動を呼びかける「ロータリー特別月間」、その年初を飾る7月は「母子の健康」月間です。環境月間の新設に伴い、2023年より7月へと移行したこの月間は、新年度のスタートに「命と暮らしを守る」というロータリーの奉仕の原点を見つめ直す最高の機会でもあります。

オンラインカ・ハキーム・ババロラ 2026-27 年度 RI 会長は、今年度のテーマとして「持続可能なインパクトを生み出そう (CREATE LASTING IMPACT)」を掲げられました。ババロラ会長は次のように述べています。

「私たちは世界を変えると口にします。しかし、ロータリーが私たち自身をどう変えてくれるかについては、十分に考えていません。ビジョンを現実にするには、まず自分自身の内なる変化を意識し、解放しなければならぬのです」

そして、単なる一過性のイベントや寄付（成果）にとどまらず、「私たちの活動が終わった後もずっと地域に残り、好循環を生み続ける仕組み（インパクト）」に注力すべきだと強調されています。

周産期医療大国・日本が抱える「心の孤立」

世界最高水準の周産期医療を誇り、出産前後の母子の死亡率が激減した現代の日本において、私たちが向き合うべき「母子の健康」の危機は、医療の不足ではありません。

今、最も深刻なのは、「出産後の深刻な孤立（ワンオペ育児）」「経済的・教育的格差」「子どもの貧困や虐待」「不登校・引きこもり」といった、目に見えにくい社会的孤立です。身体の健康は守られても、母親の心が孤立し、子どもたちの育つ環境が脅かされているのが、私たちの足元のリアルな現状です。

「単発の支援」から「持続可能な仕組み」への進化

私たちの 2840 地区でも、すでに多くのクラブが「子ども食堂への支援」や「フードバンク活動」「子どもの居場所づくり」を素晴らしいプロジェクトとして実践されています。

ここで、ババロラ会長が提唱する「持続可能なインパクト」の視点を重ね、私たちの活動をもう一步、深化させてみませんか。

「自分が変われば、クラブが変わる。クラブが変われば、地域社会が変わる」

私たちが取り組んでいる子ども食堂やフードバンクは、単に「食事を配る日」だけで終わっていないでしょうか。それを一歩進めて、例えば以下のような「続く仕組み（インパクト）」へと進化させることはできないでしょうか。

コミュニティの創出：

食堂をきっかけに、孤立している母親同士、あるいは地域の大人が繋がり、育児の悩みを日常的に SOS できるネットワークを育てる。

行政や他団体との対話・連携：

行政の手が届かない「夜間の学習支援」や「ヤングケアラーの居場所」を、地域の NPO や企業と連携して持続可能な形でプラットフォーム化する。

親へのケアと自立支援：

子どもへのアプローチだけでなく、母親がほっと一息つける時間（レスパイトケア）の提供や、孤立から抜け出すための情報提供・啓発活動を行う。

単にお金や物資を届けて終わりではなく、私たちが支援の手を離れた後も、その地域で「母子が不安なく過ごせる環境」が自律的に回り続けること。それこそが、今年度ロータリーが目指すインパクトです。

クラブの枠を超え、いま、地域が求める声を聴こう

地域の状況や、母子が置かれている環境は刻一刻と変化しています。それぞれのクラブで、「今、本当に求められているインパクトは何だろうか」と、会員同士で熱く語り合ってみてください。

まずは私たち自身が「これまでのやり方」から一歩踏み出すという内なる変化を起こし、地域に暮らす母子の笑顔を未来へ繋ぐ持続可能な基盤を、共に築いてまいりましょう。

母子の健康月間 リソースのご案内

< RI ページ >

◆ 母子の健康

<https://www.rotary.org/ja/our-causes/saving-mothers-and-children>

予防可能な原因で母と子どもが命を落とすことなどあってはならないと、私たちロータリー会員は考えます。すべての母子が質の高い医療を受けられるよう、そして、出産で命を落とす母親がいなくなり、子どもがすくすくと成長できるように、私たちは支援活動を行っています。

◆ 奉仕プロジェクトセンター <https://spc.rotary.org/>

◆ ロータリー行動グループ

<https://my.rotary.org/ja/take-action/empower-leaders/rotary-action-groups>

ロータリー行動グループは、クラブが地域社会を強化するための持続可能かつ効果的な奉仕プロジェクトを立案するのを支援します。プロジェクトの計画と実施に関してクラブに助言を与え、パートナーや資金、リソースを探す手助けをしてくれます。

◆ ロータリー財団の専門家グループ

<https://my.rotary.org/ja/take-action/apply-grants/cadre-technical-advisers>

ロータリー財団専門家グループ（Cadre）とは、ロータリー財団のグローバル補助金とプロジェクトのインパクト強化を支援するロータリー会員のネットワークです。ロータリーの重点分野や財務監査における専門知識とスキルを生かし、プロジェクトの立案や補助金の申請で会員を支援します。

◆ パートナー

<https://my.rotary.org/ja/learning-reference/about-rotary/partners>

より効果的で持続可能性の高いプロジェクトを計画するため、ロータリーのパートナーとクラブが協力することができます。このページではロータリーのパートナーとなっている団体を紹介しています。

〈 ラーニングセンター 〉

<https://my-cms.rotary.org/ja/document/learning-center-course-catalog>

■ Rotary ニュース・特集記事ページは» <https://www.rotary.org/ja/news-features>

■ Rotary Voice ページ（日本語）は» <https://rotaryblogja.wordpress.com/>

〈 映像資料 〉

■ Rotary YouTube ページは » <https://www.youtube.com/user/RotaryInternational>

2028-2029 年度 地区ガバナー候補者 ガバナーノミニー決定のお知らせ

2026年6月22日、国際ロータリー第2840地区ガバナー指名委員会より、板橋嘉一博さん(太田RC)を2028-2029年度ガバナー候補者として「ガバナーノミニー」に決定いたしましたことをご通知申し上げます。

2025-2026年度

ガバナー指名委員会

委員長	足立 進
副委員長	中野 正美
委員	山田 邦子
委員	保坂 充勇
委員	森 末廣

国際ロータリー第2840地区
2026-2027年度
ガバナーノミニー

板 橋 一 博
太田ロータリークラブ



略 歴

生年月日 1957 年 2 月 11 日
住 所 群馬県太田市
職 業 職業分類 塗料販売
現 職 株式会社 板通 専務取締役
学 歴 産業能率短期大学 卒業
公 職 日本パウダーコーティング協同組合 副理事長

ロータリー歴

【クラブ】

2012 年 10 月 太田ロータリークラブ入会
2015-2016 年度 社会奉仕委員長
2017-2018 年度 幹事
2019-2020 年度 クラブ会員増強委員長
2021-2022 年度 会員研修委員会委員長
2024-2025 年度 会長
2025-2026 年度 行動計画委員会委員長

【地区】

2015-2016 年度 米山記念奨学委員会委員
2016-2017 年度 米山記念奨学委員会委員
2017-2018 年度 米山記念奨学委員会委員
2018-2019 年度 米山記念奨学委員会委員
2019-2020 年度 米山記念奨学委員会委員長
2020-2021 年度 米山記念奨学委員会委員長
2021-2022 年度 米山記念奨学委員会委員長
2022-2023 年度 地区副幹事

ロータリー財団

ポールハリスフェロー (マルチプル)
米山功労者 (4 回)



令和7年 青森県東方沖地震 支援金報告

令和7年12月に発生した青森県東方沖地震について、
2830地区(青森)よりガバナー会を通じて各地区へ支
援依頼があり、当地区でも各クラブに支援金をお願い
をさせていただきました。

総額1,154,063円の支援金となり2830地区へ
送金する事が出来ました。

改めて各クラブ会員の皆様のご協力に心より感謝申
し上げます。ありがとうございました。



クラブリーダーシップ・ラーニングセミナー

- 日 時：2026年5月16日(土)10:00～17:30
- 会 場：安中市文化センター/並木苑
- ホストクラブ：碓氷安中ロータリークラブ
- 報告者：地区副幹事 小日向和博(安中RC)

去る5月16日(土)国際ロータリー第2840地区2026-2027年度クラブリーダーシップ・ラーニングセミナーが安中市文化センターで開催されました。2026-2027年度オンラインカ・ハキーム・ババロラRI会長の「持続可能なインパクトを生み出そう」というテーマが掲げられ、それを受け竹中 隆ガバナーエレクトは2026-2027年度地区スローガンを「ロータリーを語ろう 2.0+」としました。竹中ガバナーエレクトの熱い方針説明のもと、出席されたクラブリーダーの皆様には理解を深めて頂いた事だろとうと思います。また、第2地域ロータリー会員増強コーディネーター補佐・国際ロータリー第2590地区パストガバナーの樋口 明様に「インパクトを考える」をテーマとした講演をして頂き、そのテーマを生かし、その後「インパクトを考える、インパクトから考える」をテーマとした分科会を行いました。懇親会も会場が溢れるほどたくさんのメンバーに参加をしていただき、素晴らしいセミナーとなりました。



1. 登録・受付
2. 開会挨拶・点鐘・国歌 / ロータリーソング斉唱
3. ガバナー挨拶・来賓 / 役員紹介・ガバナーエレクト挨拶
4. 本日の目的について
5. ガバナーエレクト方針発表
6. 決議
 - ①地区組織について
 - ②地区予算について
 - ③第5期戦略計画（2026～2029年）について
 - ④地区特定資産取扱要領について採決
7. 2025年規定審議会報告
8. 地区委員会報告
9. ガバナーノミニーマニフェスト紹介
10. 休憩・昼食
11. 各種表彰
12. 講演「インパクトを考える～先達を敬い、未来を見据えて行動しましょう」
13. 謝辞
14. 休憩・移動
15. 分科会
安中文化センター / 4分科会4会場・並木苑 / 4分科会4会場
16. 休憩・移動 17. 講評
18. 閉会挨拶・点鐘
19. 懇親会



〔クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー〕

第1分科会〔安中市文化センター〕

会員増強／行動計画／戦略計画／ラーニング計画／参加促進

■ 場所：安中市文化センター 3階 第会議室 / 2階 第3学習室

■ 参加者：第1分科会（53名）

- リーダー・アドバイザー：田中久夫 PG（高崎 RC）
- ディスカッションリーダー：田中久夫 PG（高崎 RC）、小貫智太郎 AG（藤岡南 RC）、
津久井功地区ラーニング・管理運営委員（沼田 RC）、
田嶋宏樹公共イメージ・ICT推進委員長（前橋南 RC）
矢内良春米山記念奨学委員長（伊勢崎南 RC）
- サポート：三澤俊之地区副幹事（安中 RC）、前島正樹地区副幹事（安中 RC）
- 出席者：（地区）会員組織強化委員会、地区戦略計画委員会、地区行動計画推進委員会、
参加意欲向上委員会、（クラブ）クラブ会長、会員増強委員会、
クラブラーニングファシリテーター、戦略計画委員会、クラブ行動計画推進者
ラーニング委員会
- 報告者：地区副幹事 前島正樹（安中 RC）

■ 分科会趣旨説明について

講演の内容を踏まえてインパクトについて考え、さらにクラブの活動や事業がいかにインパクトをもたらすか意見交換し、各クラブが今後の活動やビジョンに活かし、牽いてはクラブの会員増強につながっていくことを目的として、本分科会を開催。

■ グループディスカッションについて

インパクトを考える・インパクトから考える

■ グループ発表について

発表者(1) 伊勢崎南 RC：田端宣章

各クラブで行っている奉仕活動でどのようにインパクトを地域に与えているかと考えたとき、事業の継続により地域の皆様に何かを得る事や、形に繋がる事がインパクトではないかと考える。

会員増強について、会員またはクラブが活発な所に入りたいと思えるような、インパクトを与えられるようなクラブ造りが必要だと感じる。

発表者(2) 藤岡南 RC：渡邊仁基

インパクト＝感動に置き換え、可及を促す、そうした意識を持ってもらう

継続事業やスポーツを通じて、地域に認知していただく事でクラブを知って頂き、会員の満足や自己肯定にも繋がって、好循環を生み出す。

事業は担当者のみで行うのではなく、多くの会員を巻き込むことで、満足度の向上・クラブとしての一体感が地域の波及効果につながると考えている。

会員増強については、いろいろなコミュニティを共有して、例会のみではなくゴルフやスポーツなどを通じて興味を持ってもらい会員増強につなげる。

発表者(3) 碓氷安中 RC：柳生由幸

継続事業の合唱コンクールやサッカー、野球など地域に対して関わりを持ち、支援を行っている。夏祭りなどを行う中で、外国人の方々とともに交流を図り地域おこしを通じてインパクトを与える。

また事業に多くのロータリアンに参加を促し、その活動によりインパクトを地域に与える。

発表者(4) 伊勢崎 RC：由井政喜

各クラブで寄付事業・青少年への活動など様々な継続事業を行っているが、各クラブでの活動名称は違うが、内容は似ている事業が多い、そこで似ている事業は地区内で同時開催・PRをすることでより大きなインパクトを地域に与えられると考えている。

PRの重要性としてメディアの活用やSNSの活用、クラブでSNSを活用して200万ビューをもらったクラブもあるので、例会・事業の動画や画像などSNSを使って地域の方々に認知をしてもらい、事業の集客や会員増強に繋げていきたい。

発表者(5) 富岡 RC：伊藤好則

インパクトを考える、インパクトから考えるを話し合ったときに、答えの出ないテーマだと考えている、各クラブで行っている物品の提供・スポーツ大会・合唱コンクールなどの支援事業が多いと感じる中で、グローバル補助金を活用して、フィリピンに浄化装置を寄贈したときに水は綺麗になったが、継続的に使うにはフィルターの入替費が必要、そこまでの支援は出来ない悩みの中、綺麗になった水を販売することで、その売り上げでフィルターを購入するといったストーリー性のある支援ができた、これも一つのインパクトだと感じている。



【クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー】

第2分科会【安中市文化センター】

青少年奉仕／米山記念奨学

■ 場所：安中市文化センター 2 階 第1学習室

■ 参加者：第2分科会（18名）

- リーダー：湯澤 晃 GN（前橋北 RC）
- ディスカッションリーダー：湯澤 晃 GN（前橋北 RC）、齊藤清海 AG（渋川 RC）
田原明岬 IA 委員長（伊勢崎南 RC）
- サポート：佐藤宗孝地区副幹事（安中 RC）、川島 博地区副幹事（安中 RC）
- 出席者：（地区・クラブ）青少年委員会、インターアクト委員会、ローターアクト委員会、
RYLA 委員会、米山記念奨学委員会、ローターアクトクラブ
- 報告者：地区副幹事 川島 博（安中 RC）

■分科会趣旨説明

講演の内容を踏まえてインパクトについて考え、さらに青少年プログラム・米山事業がいかにインパクトをもたらすか意見交換し、提唱クラブ及びカウンセラーが今後の活動に活かしていくことを目的として、本分科会を開催。

■グループディスカッション・グループ発表

第1グループ

・インパクトの概念

インパクトという言葉の意味が、自分たちが受け取った考えと違うということが分かった。
講演を聞きインパクトとは、すぐの効果より、時間をかけて波のようにじわじわと伝わっていくようなものをインパクトとして捉えるべき。

例えば

図書事業を行っているクラブがあり、長い年月をかけて図書事業を行うことで教育委員会と繋がり、そこから色々なニーズを吸い上げブラッシュアップすることで、より良い事業に仕上がっていく。という事例が発表されました。

単年度事業は自分たちの自己満足に陥りやすく、成果の実感や評価が曖昧になりがちという課題が指摘されました。

➡長期的な視点で継続・改善を重ね、持続的な波及効果を生むことがインパクトとなる。

・米山奨学生との継続的な関係

奨学期間終了後にクラブとの連絡が途絶えるケースが多く、奨学生と継続的なつながり不足が課題という意見。

あるクラブでは卒業した米山奨学生を毎年ピザパーティーに招き、定期的につながり維持している事例が紹介されました。

→単年度で米山奨学生との関係を終了せず、卒業後も関係をどう維持するかを改善していくことが重要という認識が示されました。

第2グループ

・インパクトの概念

インパクトは波及効果・新たな影響・印象に残る事業として認識している方が多かった。同じ事業を毎年実施はマンネリ化し、インパクトが薄まる懸念がある。

・より大きなインパクトをもたらす奉仕プロジェクトするには

公共イメージを意識したメディア露出、他奉仕団体を巻き込んだ事業を企画することが効果と提案がありました。

・インパクトを会員個人・クラブに与えるには

事業を行うことで会員のモチベーションの向上、会員間の絆強化、新会員の定着、退会防止に寄与するという意見がありました。

・青少年プログラムがロータリアンにもたらすインパクト

カウンセラーやホストファミリーにはインパクトがあるが、クラブ全体には波及していない。クラブ全体に共有されていないことが問題との意見がありました。



【クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー】

第3分科会【安中市文化センター】

公共イメージ / ICT 推進 / 国際大会

■ 場所：安中市文化センター 3 階 大会議室②

■ 参加者：第3分科会

- リーダー・アドバイザー：保坂充勇 PG（沼田 RC）
- ディスカッションリーダー：保坂充勇 PG（沼田 RC）、大木孝之 AG（伊勢崎東 RC）
上柿敬一資金管理・平和フィロソフィ委員長（伊勢崎中央 RC）
後藤圭一ロータリーの友地区委員長（桐生 RC）
- サポート：高橋 豊地区副幹事（安中 RC）、飯島岳吏地区副幹事（安中 RC）
- 出席対象者：（地区）公共イメージ・ICT 推進委員会、ロータリーの友地区委員会、
国際大会推進委員会、（各クラブ）幹事、公共イメージ委員会
- 報告者：地区副幹事 飯島岳吏（安中 RC）

■ 分科会趣旨説明

講演の内容を踏まえてインパクトについて考え、さらにクラブの活動や公共イメージがいかにインパクトをもたらすか意見交換し、各クラブの今後の活動に活かしていくことを目的として、本分科会を開催。

■ グループディスカッション・グループ発表について

- ・「インパクトのある事業」を過度にアピールする手法は日本人の気質に合わず、上品な広報が適切との意見
- ・実施事業がどのように評価され、どの程度インパクトを与えているかを検証することが重要
- ・既存事業にアレンジを加え、外部にインパクトを生み出すための意見交換が必要
- ・本日のセミナーで得たインパクトの理解を自クラブのメンバーへ伝える事が重要
- ・出席率の低下はクラブの力を減少させ、インパクトへの推進力も弱まる要因となる
- ・インパクトとは、物事を継続し次へつないでいく事
- ・時代や地域社会から取り残されないよう、毎年新たなアイデアを加えつつ活動を継続することが不可欠



〔クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー〕

第4分科会〔安中市文化センター〕

ロータリー財団／奉仕プロジェクト

■ 場所：安中市文化センター 3階 大会議室

■ 参加者：第4分科会（38名）

- リーダー・アドバイザー：森田高史 PG（伊勢崎 RC）
- ディスカッションリーダー：森田高史 PG（伊勢崎 RC）、小暮雅丈 AG（館林 RC）、
新井良和 RLI 推進委員長（伊勢崎 RC）、
唐沢健二地区補助金委員長（中之条 RC）、
水石清治ポリオプラス・資金推進委員長（沼田 RC）
- サポート：大谷栄義地区副幹事（安中 RC）、田村光三地区副幹事（安中 RC）
- 出席者：（地区・クラブ）各ロータリー財団委員会、奉仕プロジェクト委員会
- 報告者：地区副幹事 大谷栄義（安中 RC）

■ 分科会趣旨説明について

第4分科会の冒頭、全体の会場にて、分科会リーダー森田高史パストガバナーより趣旨説明がなされた。

■ グループディスカッションについて

森田高史パストガバナー、小暮雅丈ガバナー補佐、新井良和 RLI 推進委員長、唐沢健二地区補助金委員長、水石清治ポリオプラス・資金推進委員長の5名のディスカッションリーダーを中心にディスカッションを実施。テーマとして「インパクト（影響・効果）」と奉仕活動のあり方について議論を行った。

■ グループ発表について

今回の議論は、各テーブルで「インパクト（影響・効果）」と奉仕活動のあり方について意見交換した内容です。

① インパクトに関する理解

- ・「インパクト」とは単なる衝撃ではなく、影響・効果・変化を意味する
- ・地域への影響や継続性、変化の創出が重要
- ・活動を通じて人が成長し、周囲を巻き込むことでインパクトが強まる

② 奨学金・資金活用に関する課題

- ・米山奨学金（外国人留学生向け）は高額である一方、国内学生との不公平感がある
- > 解決策として
地区やクラブ主導で地域独自の奨学金制度を作るべき
- > 資金（財団資金）は：
RI に送金→3年後に地区へ戻る仕組み
地域奉仕にどう活用するかが重要な議題

③ 具体的な奉仕活動事例

福祉・社会支援

＞養護施設の卒業生へ：

スーツ寄贈（13年間継続）

今後は就職・住居・保証人など生活面の支援（ソフト支援）も必要

地域活動・文化

- ・寄席活動の実施（小学校・地域）
- ・継続することで文化形成に寄与
- ・台湾との交流・スポーツ大会など
- ・子どもの育成・国際理解

人との関係構築

- ・活動を通じて「困ったら相談できる関係」を構築
- ・個人と継続的につながることが大きな価値

④ 活動の本質的なポイント

- ・小さな関わりから活動が発展するケースが多い
- ・個人の経験や挑戦がインパクトを生む
- ・「人を増やす（会員増強）」が活動の基盤
- ・自分たちも楽しむことが継続につながる

⑤ 今後の課題・方向性

- ・活動の効果を測定・検証し、次に活かすこと
- ・地域ニーズをしっかりと把握すること
- ・企業や地域と連携し、広がりを持たせること
- ・PRを強化し、活動の認知を高めること

まとめ

「人を起点に、地域に継続的な変化を生む活動を広げていくことが、ロータリーのインパクトである」



【クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー】

第1分科会【並木苑】

会員増強／行動計画／戦略計画／ラーニング計画／参加促進

■ 場所：並木苑 白根①

■ 参加者：第1分科会（46名）

- リーダー・アドバイザー：森 末廣直前 G（桐生 RC）
- ディスカッションリーダー：森 末廣直前 G（桐生 RC）、青山 豊 AG（桐生西 RC）、小磯正康地区ラーニング・管理運営委員会委員（前橋中央 RC）、星野麗日参加意欲向上委員長（桐生南 RC）、関口朋克地区入会促進小委員長（高崎セントラル RC）
- サポート：小板橋 桂地区会計長（安中 RC）、平田 稔地区財務委員（高崎北 RC）、櫻井 誠地区副幹事（安中 RC）、相川北斗地区副幹事（安中 RC）
- 出席者：（地区）会員組織強化委員会、地区戦略計画委員会、地区行動計画推進委員会、参加意欲向上委員会、（クラブ）クラブ会長、会員増強委員会、クラブラーニングファシリテーター、戦略計画委員会、クラブ行動計画推進者ラーニング委員会
- 報告者：地区副幹事 櫻井 誠（安中 RC）

■分科会趣旨説明について

リーダーの森 末廣直前ガバナーより趣旨説明がありインパクトを共通テーマに、各グループそれぞれのクラブの実情や現状、解決策の討議を行い、その後グループごとに発表を行った。

■グループディスカッションについて

◇インパクトを考える

・講演を踏まえて、インパクトとは

インパクトとは、人の意識や行動を変え、その後の人生や地域に継続的な変化をもたらすことであると考えられる。

・クラブの奉仕プロジェクトはインパクトを与えてきたか

周年事業を契機とした地域社会との連携、施設の子供たちとのバーベキューやサッカー大会を通じた継続支援、障がい者アート展の開催、インターアクト、ローターアクトへの支援など成果として示された。一方、新聞掲載などで活動報告は行うが「実施して終わり」になっている継続事業の例も問題点として指摘された。

・インパクトをもたらすために

地域ニーズを把握し活動の継続性と成果の波及効果、可視化を図る必要がある。活動を通じて会員自身も変化を実感し、「次に何をすべきか」を会員同士で主体的に話し合っ
て決めていくことが、好循環を生み参加意欲の向上につながる共有された。

・より大きなインパクトをもたらす奉仕プロジェクトにするためには

今やっている活動の延長線上で終わらず、その活動が「その後も地域にどう影響を与え続けるか」を事前に設計し、継続させていく。効果の検証を行い活動に反映させる。ロータリークラブの奉仕活動をデジタル上でタイムリーかつ魅力的に発信することが求められる。

■グループ発表について

◇インパクトから考える

・インパクトがもたらす公共イメージの向上、良い評判の形成

激減している新聞媒体のみならず、SNSの積極活用、HPの充実、デジタル媒体による発信を強化し、ロータリーの価値を地域社会に見える形で伝えることで、公共イメージの向上、良い評判の形成につながるとの意見が出された。

・インパクトがもたらす自分自身の中での変化とは

会員一人ひとりが人生において経験した「自分の人生でインパクトを受けた瞬間」を共有したところ、迷いや不安が消え、覚悟、能動性を生む原動力となり、価値観や生きる姿勢が変わる転換点が共通点として確認された。

・インパクトはロータリアン個人、クラブに何をもたらすか

会員の達成感、自己成長、満足度向上、クラブの存在意義の明確化、地域からの信頼向上
新たな協働機会の創出、誇りとロータリーへの愛着、クラブへの帰属意識が上げられた。

・インパクトから会員の満足度の向上につなげるためには

参加することで自分の課題解決や成長につながるクラブづくり、会員自身の主体性を引き出す仕組みづくりが重要である。アンケートなどを活用し、取り組みたい見直したい事業、地域の課題を把握し、クラブの方向性に反映させることが必要であり、会員自身の問題意識や地域のニーズを起点に事業を構築することで、クラブの存在意義を高めることができるとの意見が出された。

自分の貢献が地域を変えていると実感できる仕組みや、事業成果などを可能な範囲で見える化・数値化し、成功体験をクラブ全体で共有する。

出席率を数値化し、クラブへの愛着や活動への参画度を測定する。出席率を上げるために、例会の食事の魅力アップも効果的であったことも共有できた。

・インパクトは会員増強につながるか

「社会に価値を生むクラブ」という認識が広がれば、入会動機が強まる

インパクトの可視化が増強の鍵となる。女性会員の活躍や多様性の確保も注目度が高い。

・クラブビジョンとインパクト

クラブビジョンは会員の共通理解と共感を得ながら「どんな変化を地域にもたらしたいか」を軸に、どのような「インパクト（変革）」をもたらしたいかを明確にすることでブレない奉仕活動が可能となる。

米山奨学会の発展案：真面目な議論のなかで「米山（奨学生・学友）に日本人を入れてみたらどうか」という、従来の枠組みを超えた新たなインパクト創出への提起もなされた。

・より大きなインパクトをもたらす戦略計画と行動計画

将来的にはインターアクト、ローターアクトの経験者がロータリアンへと成長していく流れを意識した人材育成も重要な戦略として提案された。

そのビジョンに沿って、奉仕プロジェクト、公共イメージ、会員増強を一体的に考えるインパクトは“偶然”ではなく“設計”して生み出すものであり、地域課題を見据えた事業づくり、成果の見える化、継続的な取り組み、会員の主体性向上効果的な情報発信を基盤に、クラブ全員で考え続けるプロセスそのものから生まれることが確認できた。



【クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー】

第2分科会【並木苑】

青少年交換／米山記念奨学

■ 場所：並木苑 白根②

■ 参加者：第2分科会（39名）

- リーダー・アドバイザー：竹内正幸 PG（太田 RC）
- ディスカッションリーダー：竹内正幸 PG（太田 RC）、井汲憲治 AG（高崎シフォニー RC）、石川好男グローバル補助金委員長（太田 RC）、広瀬雅美地区新クラブ促進委員長（高崎 RC）
- サポート：櫻井正晴代表地区幹事（安中 RC）、樋口哲雄地区幹事（高崎北 RC）、廣木晴久地区幹事（前橋北）、新井祥文地区副幹事（安中 RC）
- 出席者：（地区・クラブ）青少年委員会、インターアクト委員会、ローターアクト委員会、RYLA 委員会、米山記念奨学委員会、ローターアクトクラブ
- 報告者：地区副幹事 新井祥文（安中 RC）

■ 分科会趣旨説明について

各分科会（テーブル）で行われた「インパクト」に関する議論の結果を共有するための報告会です。特に、米山奨学事業や青少年交換プログラムといった青少年奉仕活動がもたらすインパクトに焦点が当てられました。各グループから、現状の課題とインパクトを最大化するための具体的な提案が発表されました。

■ グループ発表について

第1グループ（発表者：舟木諒（前橋西））

現状の課題

ロータリーの事業は単年度で完結しがちで、その後の効果を検証する仕組みが不足している。また、地区から配布される決算書などの情報が会員に十分に共有されておらず、資金の使途が不透明に感じられている。

インパクト向上の提案

事業の対象者（奨学生など）と継続的な交流を持つことが重要。まずは情報を正確に共有し、事業効果を検証した上で、より良い変化を実感できる体制を築くべき。

クラブへのメリット

明るい奨学生の存在はクラブの雰囲気良くし、「人の役に立っている」という実感が会員の満足度向上や退会防止につながる。

第2グループ（発表者：福地晋也（高崎））

ロータリアンへのインパクト：青少年プログラム（ローターアクト、インターアクト）参加者の立派な発表は大きな刺激になる。また、留学生個人と接することで、その国に対するネガティブな固定観念が払拭されるといったポジティブな影響がある。

現状の課題：これらの良いインパクトが、新入会員を含めたクラブ全体に十分に伝わっていない。専門用語の難しさや、活動の認知度不足（例：インターアクト実施校の保護者がロータリーとの関連を知らない）が問題。

共有促進の提案：例会内に事業内容を学ぶ時間を設ける、他クラブの例会（メイクアップ）やローターアクトの活動に積極的に参加し、知識と刺激を共有することが必要。

第3グループ（発表者：グエンゴックフエン（高崎北 RAC））

インパクトの捉え方：インパクトは一瞬で消えるものではなく、継続的で終わりが無いもの。

現状の課題：ロータリーは活動内容を内部で共有するに留まり、外部への発信が少ないため、社会的なインパクトが小さい。外部からのインパクトも同様に少ない。

インパクト創出の提案：外部だけでなく、会員同士の「内部のインパクト」も重要。奨学生に例会で役割を与えたり、食事の前に「握手タイム」を設けたりするなど、意図的に接点を増やすことで、小さなインパクトを積み重ねて大きくしていくべき。



〔クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー〕

第3分科会〔並木苑〕

公共イメージ／ICT 推進／国際大会

■ 場所：並木苑 赤城①

■ 参加者：第3分科会（39名）

○リーダー・アドバイザー：足立 進 PG（前橋東 RC）

○ディスカッションリーダー：足立 進 PG（前橋東 RC）、菊川善明 AG（前橋 RC）
新井 聡青少年交換委員長（前橋西 RC）

○サポート：坂上順一地区副幹事（安中 RC）、三浦雄人地区副幹事（安中 RC）

○出席者：（地区）公共イメージ・ICT 推進委員会、ロータリーの友地区委員会、
国際大会推進委員会、（各クラブ）幹事、公共イメージ委員会、
ローターアクトクラブ

○報告者：地区副幹事 三浦雄人（安中 RC）

■ 分科会趣旨説明について

インパクトについて、クラブの内部、外部での持続可能なインパクトの創出に関するアイデアの発表。

■ グループディスカッション、発表について

①グループディスカッションで話し合われた「持続可能なインパクト」を生み出すためのアイデアについて発表しました。差別化と持続性の重要性を軸に、会員内部および地域社会に対する具体的な取り組みが共有されました。

【会員内部でのインパクト】

持続可能な飲み会：単なる懇親に留まらず、胸襟を開いて意見交換を行う場として活用。世代間のコミュニケーションを促進し、特にJC（青年会議所）出身の若手会員などを取り込み、組織の活性化に繋がります。

【地域社会へのインパクト】

・ 桐生の気温計設置

かつて日本一の暑さを記録した桐生市で、駅前に巨大な気温計を設置した事例。市民へのインパクトが大きく、さらに子供たちへの教育活動に繋げることで持続性を持たせています。

・ かまどベンチの実践

災害時にかまどになるベンチを設置し、実際に使用して近所に炊き出しを振る舞う活動。防災訓練と地域貢献を兼ねたインパクトの大きな実践です。

・ ユニークな名刺の活用：

渡す相手に強い印象と興味を与えるユニークなデザインの名刺を紹介。継続的に使用することで、事業の宣伝効果も期待できるヒントとして挙げられました。

- ・ 高校生への模擬面接：

地域奉仕活動として、高校と連携し、就職を控えた生徒たちに会員が模擬面接を実施。毎年継続することで、社会貢献として大きなインパクトを生み出しています。

- ・ 情報発信の強化

SNS、マスコミ、LINEなどを活用した情報発信も、継続可能なインパクトとして重要であると述べられました。

②各クラブで行っている奉仕活動ではいまいちインパクトが薄い。どのようにインパクトを地域に与えているかと考えたとき、地域の皆様と一緒に何かを得る事や、形に繋がる事がインパクトではないかと考える。

会員増強について、会員またはクラブが活発な所に入りたいと思えるような、インパクトを与えられるようなクラブ造りが必要だと感じる。

③各クラブの活動報告を踏まえ、地域社会における「インパクト」の重要性について議論されました。継続的で影響力のある事業が、青少年育成やクラブの知名度向上に繋がり、結果として会員の増強や退会防止に貢献するという結論が共有されました。一方で、クラブ内部の課題やブランディングの問題も浮き彫りになりました。

- ・ インパクトのある継続事業の重要性：

太田中央ロータリークラブが18年間続ける小学生バレーボール大会が成功事例として紹介されました。応募が殺到するほどの知名度と影響力を持ち、事業の継続と成果分析の重要性が強調されました。

- ・ クラブ内部の力学と課題：

新しい事業への意欲はあるものの、クラブ内の重鎮の存在などから「出る杭は打たれる」状況があり、行動に移せないもどかしさを感じている会員が多いとの意見が出ました。

- ・ 公共イメージと活動の方向性：

ロータリーはブランディングが不得手であり、ライオンズクラブなどとの違いが一般に分かりづらいと指摘されました。また、行政サービスが充実する中で、本当に地域が必要とする活動（ニーズ）を見つけることが難しくなっている現状が分析されました。

- ・ 最終的な目標：

クラブ内で足並みを揃え、インパクトのある事業を実現できれば、新会員の募集や退会防止に繋がるという点で一致しました。



〔クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー〕

第4分科会〔並木苑〕

ロータリー財団 / 奉仕プロジェクト

■ 場所：並木苑 赤城②

■ 参加者：第4分科会（33名）

○リーダー・アドバイザー：中野正美 PG（太田 RC）

○ディスカッションリーダー：中野正美 PG（太田 RC）、草所晋一 AG（桐生赤城 RC）、
島田渉 奉仕プロジェクト委員長（前橋南 RC）

○サポート：小日向和博地区副幹事（安中 RC）、松岡将之地区副幹事（安中 RC）

○出席者：（地区・クラブ）各ロータリー財団委員会、奉仕プロジェクト委員会、
ローターアクトクラブ

○報告者：地区副幹事 松岡将之（安中 RC）

■ 分科会趣旨説明について

インパクトとは、抽象的で分かりづらい概念ですがプロジェクトの実施、完了を経て直接携わらなかった人々の心の中やその地域に全体における変化。気づきや思いが広がることなのではないかと解釈しています。インパクトを理解し行動、ロータリーの公共イメージの向上に資するか？ また会員増強に繋げるか？ クラブ会長・クラブ会員に取って有益なヒントとなることを目的とします。

■ グループディスカッションについて

- ① インパクトを考える、インパクトから考える
- ② 財団＋奉仕プロジェクト

■ グループ発表について

○ 第1グループ（高崎 RC：竹山哲男／前橋 RC：鈴木 勉）

インパクトをどう理解するか？を議論し継続する力こそインパクトに繋がるという意見がありました。高崎クラブでは基金を創立し社会奉仕を目的とする団体を支援しています。現在で3年になりますが「いのちの電話」に支援しています。継続して支援することにより自殺を取り止めた結果等があり続ける大事さを感じました。また、子ども達を支援しているが支援したのみで検証していないことによりどうインパクトを起こしたかを検証することが必要と感じました。

○ 第2グループ（前橋中央 RC：岡田忠彰）

インパクトのイメージを議論しました。「社会的にインパクト」、「点より線のインパクト」、「想像を超えるインパクト」等の発言がありました。各クラブの地区補助金の事例や事業の決定方法をどうしているか？ インパクトを世間に与える為には事業を決定する過程で会員の間でインパクトを与えられるかが大事である。よりインパクトを与える為には、事業を振り返ることや他団体と連携する必要があると感じました。

○第3グループ（桐生西 RC：河内良範）

インパクトとはどういうことか？ クラブの奉仕活動やスポーツイベント、地域の清掃活動を行うことでこれを起点にして周知がされ地域包括連携活動へと繋がるのがインパクトではないと感じました。時代の変化の中でいろんな対応が必要になる未来ですが対応しつつ事業を行うことで地域住民にインパクトを与えることもできるし、私達自身も変化に対応することによりインパクトを受けることもあるのではないかと感じました。



クラブ管理運営セミナー

- 日 時： 2026年5月25日(月)15:00～16:30
- 会 場： 高崎市総合福祉センター たまごホール
- 出席者： 竹中隆ガバナーエレクト、湯澤 晃ガバナーノミニー、各分区ガバナー補佐、
櫻井正晴代表地区幹事、廣木晴久地区幹事、小板橋桂地区会計長、
地区ラーニング・管理運営委員会委員、2026-2027年度地区副幹事、
2027-2028年度地区副幹事、各クラブ会長エレクト・次年度幹事・事務局
- 報告者： 地区副幹事 飯島岳吏(安中RC)

2026-2027 年度のクラブ管理運営セミナーが 2026 年 5 月 25 日（月）に高崎市総合福祉センター たまごホールで開催された。

竹中隆ガバナーエレクトの挨拶があり、なぜ中期的な数値管理が必要か（数値は現状把握と進捗検証のためで入力自体が目的ではない）説明があった。数値管理は退会防止とクラブ活性化につながる。各クラブは「こうりたい」とクラブビジョンを示し、3～5年の戦略計画に落とし込み可能であれば数値目標も設定してもらいたい。そしてロータリーの4つの行動計画を参照にし、会員と優先事項を共有してもらいたい。

次に ICT 推進委員会田嶋宏樹委員長より MY ROTARY の活用について説明があった。

ラーニングセンターの活用で（ラーニングコース・クラブのリーダーシップのコース・クラブ会長の基本・クラブ幹事の基本）をうけてもらいたい。

次にクラブ DX 化推進について説明があり伊勢崎 RC、高崎 RC で使っている事例紹介の説明があり事務局の負担軽減にもつながるとの事。

次にロータリーカードについてロータリー財団委員会石井英智副委員長より説明があり、湯澤晃ガバナーノミニーの講評の後、閉会した。



ぐんま伊勢崎ロータリークラブ 加盟認証状伝達式および懇親会

- 日 時：2026年6月10日(水)18:00~
- 会 場：例会場 山海酒房あかね屋
- 出席者：竹中 隆ガバナー、鷹巣 修第2分区ガバナー補佐、樋口哲雄代表地区幹事、クラブ会員28名
- 報告者：代表地区幹事 樋口哲雄(高崎北)

6月10日(水)例会場「山海酒房あかね屋」に於いて、新クラブ「ぐんま伊勢崎ロータリークラブ」の加盟認証状伝達式が開催されました。竹中 隆ガバナーより国際ロータリーより届きました加盟認証状が峯岸則幸会長に手渡され、会場は、新クラブの門出を祝う拍手で包まれました。その後、峯岸会長及び新クラブのアドバイザーである牛久保哲男パストガバナーから挨拶がありました。

そして、懇親会が催され新クラブ設立を祝い懇親を深めました。



卓話・研修 出前サービス 実施のご案内

2026-2027年度

ガバナー

竹中 隆

地区ラーニング ファシリテーター

田中 久夫

拝啓 梅雨の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、次年度も例年通り、地区のクラブに対するサービスとして、「卓話・研修 出前サービス」を継続実施致します。

本企画は、地区内ロータリークラブに最新の正しい「ロータリー情報」を伝達するとともに、各クラブ会員にロータリーの理念と実践に関する認識を深めていただくために、「ロータリー情報」の各個別テーマに造詣の深い地区指導者を各クラブ（または分区・グループ単位）の要請に応じて派遣する、地区のクラブに対するサービスです。魅力的なクラブづくりに是非、様々なテーマでご活用いただければ幸いです。

敬具

記

【サービス・メニュー】

1. **ロータリー・カレンダーによる特別月間の卓話 講師派遣**
テーマ該当地区委員長（または委員・パストガバナー等）が対応する。
2. **「ロータリー財団」に関する卓話・研修**
ロータリー財団委員会が対応する
3. **「ロータリーの歴史・理念」の卓話講師派遣**
パストガバナーが対応する。
4. **元気なクラブづくり (CLP)・クラブ活性化に関する卓話・研修**
本田博己パストガバナー、竹内正幸パストガバナー、森田高史パストガバナー、森 末廣直前ガバナーが対応する。
5. **クラブ会員研修・新会員研修等の講師派遣**
地区ラーニング・管理運営委員会、RLI 推進委員会 が対応する。
6. **その他 クラブのニーズによる依頼**

【運営手順】

- ① クラブは上記サービス・メニューおよび「テーマ別派遣講師一覧」（別紙）を確認し、希望内容を「卓話・研修出前サービス 講師派遣依頼申込書」（別紙フォーマット）に記入し、1か月前までに申し込む。
- ② 地区ラーニング・管理運営委員会は、依頼内容に相応しい講師に講演依頼し、日程調整をして、ガバナー決裁の後、各クラブに通知する。
- ③ 講師謝礼（交通費として）は、一律2,000円とし、依頼クラブが負担する。（派遣講師に直接お渡しください）
- ④ 竹中年度のサービスは7月より開始します。サービスの事務局は地区ラーニング・管理運営委員会です。

以上

国際ロータリー第 2840 地区 2026-2027 年度
出前卓話 テーマ別 派遣講師一覧

	テーマ	講師名	クラブ
A	ロータリー全般	清 章司 PG	藤岡
		山崎 學 PG	高崎南
		福田 一良 PG	前橋西
		安藤 震太郎 PG	高崎北
		本田 博己 PG	前橋
		生方 彰 PG	沼田中央
		竹中 隆 G	高崎北
B	クラブのビジョン・戦略計画づくり	本田 博己 PG	前橋
		田中 久夫 PG	高崎
		森田 高史 PG	伊勢崎
		竹中 隆 G	高崎北
C	地区のビジョン・行動計画	田中 久夫 PG	高崎
		保坂 充勇 PG	沼田
		森 末廣直前 G	桐生
		湯澤 晃 GE	前橋北
D	ロータリー財団	森田 高史 PG	伊勢崎
	ロータリー財団	小林 洋樹	前橋
	・資金推進 ポリオプラス	水石 清治	沼田
	・地区補助金	唐沢 健二	中之条
	・グローバル補助金	石川 好男	太田
	・資金管理、平和フェロシップ	上柿 敬一	伊勢崎中央
E	奉仕プロジェクト	山田 邦子 PG	前橋
	奉仕プロジェクト	島田 涉	前橋南
	青少年奉仕プログラム	保坂 充勇 PG	沼田
	・青少年交換	新井 聡	前橋西
	・インターアクト	田原 明岬	伊勢崎南
	・RYLA・学友	藤澤 真史	桐生赤城
F	ローターアクト	青山 豊	桐生西
G	米山記念奨学会	竹内 正幸 PG	太田
		田中 久夫 PG	高崎
		矢内 良春	伊勢崎南
H	ロータリーの友（雑誌）	後藤 圭一	桐生
I	ロータリーの歴史・理念	曾我 隆一 PG	前橋
		横山 公一 PG	沼田
		本田 博己 PG	前橋
J	クラブ研修・新会員研修・管理運営等	地区ラウンク・管理運営委員	
		RLI 推進委員	
K	公共イメージ・環境・ICT	足立 進 PG	前橋東
		中野 正美 PG	太田
		田嶋 宏樹	前橋南
L	会員増強	牛久保哲男 PG	伊勢崎
	会員増強	中野 正美 PG	太田
	会員増強（会員組織強化）	担当のガバナー補佐	
	会員増強（入会促進）	関口 朋克	高崎セントラル
	会員増強（新クラブ結成）	広瀬 雅美	高崎
M	参加意欲向上推進	山田 邦子 PG	前橋
		星野 儼日	桐生南
N	国際大会推進（ワツ・バルビタ）	小林 聡	桐生西
O	元気なクラブづくり（CLP）・クラブ活性化	本田 博己 PG	前橋
		竹内 正幸 PG	太田
		森田 高史 PG	伊勢崎
		森 末廣直前 G	桐生
P	危機管理	森田 均 PG	渋川
		足立 進 PG	前橋東
		竹中 隆 G	高崎北
Q	審議会立法案	曾我 隆一 PG	前橋
		本田 博己 PG	前橋
		足立 進 PG	前橋東

卓話・研修出前サービス講師派遣依頼申込書

下記内容にて、講師の派遣を依頼します。

ク ラ ブ 名	ロータリークラブ		
テ ー マ			
希 望 講 師 名	(空欄でも可)		
希 望 形 式	☐ 例会卓話	☐ 会員研修	☐ その他
希 望 日 時	20 年 月 日 (曜日)	時	分～
講 演 時 間	分		
会 場			
所 在 地			
会 場 電 話	-	-	
担 当 者 名			
クラブ役職			
連 絡 先	☐ 自宅	☐ 事業所	☐ クラブ事務局
連絡先電話	-	-	
連絡先 FAX	-	-	
メールアドレス			

*送付先：ガバナー事務所 FAX：02-212-2841 / E-mail takenaka@rid2840.jp

国際ロータリー第 2840 地区 2026-2027 年度

ガバナー公式訪問要領

1. ガバナー公式訪問は、単独クラブ訪問とします。
2. 訪問時は、ガバナー、ガバナー補佐、及び地区幹事又は分区担当副幹事のいずれか 1 名の計 3 ～ 4 名が原則訪問します。
3. **公式訪問前クラブ協議会の実施**
 ガバナー補佐は、公式訪問前 2 週間前までに所管のクラブを訪問し、例会前後の時間等を利用してクラブ役員との協議会を実施し、各クラブの現況や課題、クラブの目標や地区運営に関する意見等について協議するとともに、公式訪問についての事前協議を行ってください。
 また、その結果を所定の様式にて公式訪問の 1 週間前までにガバナー事務所まで報告してください。上記は、数名のクラブ役員との懇談でも結構です。
4. **クラブ例会内での公式訪問の趣旨説明**
 ガバナー補佐は、公式訪問前のクラブの例会において、公式訪問の趣旨や要領、また、現状の地区運営の状況などを 10 分～15 分程度、クラブ会員に対して説明し、出席を奨励してください
5. **公式訪問の進め方**
 - (1) クラブ役員との懇談会（例会前 50 分）
 会長、幹事、会長エレクト、クラブ・ラーニング・ファシリテーター、副会長、会員増強委員長、公共イメージ委員長、クラブが課題と認識している担当委員長等、及び地区役員、インターアクト、ローターアクト提唱クラブは、各会長も出席してください。
 - (2) 例会
 ガバナースピーチとして 25 分程度時間を割いてください。プロジェクター、スクリーンの準備をお願いします。
 - (3) クラブ協議会（例会後 60 分）
 懇談会参加者のほか、各委員長、新入会員を義務出席とし、会員全員に出席を奨励してください。本年度は、特に地区とクラブの双方向性をキーワードとしておりますので、双方向の協議が十分できるような設営をお願いします。協議内容については以下の項目を入れてください。
 - ①クラブの課題
 - ②クラブの目標（特に会員増強計画）の進捗状況
 - ③地区運営に関するクラブのご意見
6. **公式訪問の目的は、国際ロータリー細則に以下のように規定されています。**
 個々のクラブあるいは複数クラブ合同の例会への公式訪問を行うこと。その際には、以下を行うため、ガバナーの出席が最大限の成果を生むような機会を選ぶようにする。
 - ①ロータリーの重要な問題に焦点を当て関心を持たせる。
 - ②弱体クラブ、あるいは問題を抱えたクラブに関心を払う。
 - ③奉仕活動参加へのロータリアンの意欲をかきたてる。
 - ④クラブの定款と細則が、ロータリーの組織規程を遵守していることを確認する。
 - ⑤顕著な貢献をした地区内のロータリアンをガバナー自ら表彰する。
7. 各クラブは現況報告書（4 部）を 8 月 31 日までにガバナー事務所に提出してください。
 9 月 12 日までに訪問するクラブは仮報告書を、訪問 2 週間前までに提出してください。

2026-2027年度 ガバナー公式訪問日程表

2026年 8月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17 前橋北 (第1分区)	18	19	20 碓氷安中 (第6分区)	21	22
23/30	24 桐生 (第2分区A)	25 伊勢崎南 (第2分区B)	26	27 渋川 (第5分区)	28	29

2026年 9月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
		1	2 新田富 (第4分区A)	3 富岡中央 (第6分区)	4	5
6	7	8 太田南 (第4分区A)	9 桐生南 (第2分区A)	10 藤岡 (第6分区)	11 藤岡南 (第6分区)	12
13	14 伊勢崎東 (第2分区B)	15 渋川みどり (第5分区)	16 富岡 (第6分区)	17	18	19
20	21	22	23	24 高崎東 (第3分区)	25	26
27	28	29	30	31		

2026年 10月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
				1 館林ミレニアム (第4分区B)	2 前橋西 (第1分区)	3
4	5	6 高崎南 (第3分区)	7 前橋中央 (第1分区)	8 沼田中央 (第5分区)	9 館林 (第4分区B)	10
11	12	13	14	15 前橋東 (第1分区)	16 太田中央 (第4分区A)	17
18	19	20 中之条 (第5分区)	21 前橋南 (第1分区)	22	23	24
25	26 高崎 (第3分区)	27 沼田 (第5分区)	28	29	30	31

2026年 11月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	2	3	4 館林東 (第4分区B)	5 群馬境 (第2分区B)	6	7
8	9	10 高崎セントラル (第3分区)	11 大泉 (第4分区B)	12	13 高崎シンフォニー (第3分区)	14
15	16	17 桐生赤城 (第2分区A)	18 伊勢崎 (第2分区B)	19 太田 (第4分区A)	20	21
22	23	24 前橋 (第1分区)	25 太田西 (第4分区A)	26	27	28
29	30	31				

2026年 12月

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
		1	2	3	4	5
6	7	8 富岡かぶら (第 6 分区)	9 高崎北 (第 3 分区)	10 伊勢崎中央 (第 2 分区 B)	11 桐生西 (第 2 分区 A)	12
13	14	15 安中 (第 6 分区)	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2026-2027 年度 地区主要行事予定表

日付	時間帯	項目	場 所
2026年			
1月	11(日)～15(木)	国際協議会	オーランド(フロリダ州)
	19(月)～23(金)	次年度委員長面談	前橋問屋センター会館
	24(土)	★(米山記念奨学生選考会)	前橋問屋センター会館
	25(日)	13:30～ ★(職業奉仕セミナー)	前橋問屋センター会館
2月	03(火)	18～ 第1回ガバナー補佐会議	たかさき書斎
	14(土)	10:30～ ★第4回ガバナー諮問委員会	前橋問屋センター会館
	14(土)	12～ 第1回地区ラーニング・管理運営委員会	ガバナー事務所
	14(土)	13:30～ 地区チームラーニングセミナー	前橋問屋センター会館
	21(土)	14～ ★(DEI推進委員会主催意見交換会)	前橋問屋センター会館&Zoom
	23(月・祝)		ロータリー創立記念日
3月	01(日)	13～ ★(ローターアクト年次大会)最高の日	
	04(水)	15:30～ 第2回地区ラーニング・管理運営委員会	ガバナー事務所
	07(土)	13:30～ 第1回ガバナー補佐・委員長予定者合同会議	高崎商工会議所
	07(土)	16～ ★(米山記念奨学生終了式・歓送会)	ホテルメトロポリタン高崎
	08(日)	10:30～ ★(RYLA研修会)	高崎市労使会館
	15(日)	終日 会長エレクト・次年度幹事ラーニングセミナー	磯部ガーデン
	20(金・祝)	14:30～ ★新会員セミナー	エテルナ高崎
4月	04(土)	13:30～ 第3回地区ラーニング・管理運営委員会	ビエント高崎
	04(土)	15～ 第2回ガバナー補佐・委員長合同会議	ビエント高崎
	05(日)	午後 ローターアクト会長エレクト・次年度幹事ラーニングセミナー	前橋問屋センター会館
	18(土)	午前 ★(新規米山記念奨学生カウンセラーオリエンテーション)	前橋問屋センター会館
	18(土)	午後 ★(新規米山記念奨学生・カウンセラーオリエンテーション)	前橋問屋センター会館
	18(土)	午後 ★(継続米山記念奨学生資格審査面談)	前橋問屋センター会館
	19(日)	15～ ★(青少年交換ホストクラブ第1回オリエンテーション)	前橋問屋センター会館
5月	16(土)	終日 クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー	安中市文化センター
	16(土)	夜 クラブリーダーシップ・ラーニング・セミナー懇親会	並木苑
	17(日)	午後 ★(地区補助金最終審査会)	前橋問屋センター会館
	17(日)	午後 ★(青少年交換ホストクラブ・ホストファミリーオリエンテーション)	前橋問屋センター会館
	25(月)	15～ クラブ管理運営セミナー	高崎市総合福祉センター
6月	13(土)～17(水)	国際大会台北	
	24(水)	15～ ★(米山記念奨学生指定校選定会議)	ガバナー事務所
	27(土)	午後 第5回ガバナー諮問委員会	マリエールウィル高崎
	27(土)	午後 現新地区役員合同連絡会議	マリエールウィル高崎
	28(日)	14:30～ ★(青少年交換受入学生歓迎会・派遣学生壮行会)	ホテルサンダーソン

日付		時間帯	項目	場 所
7月	01(水)		竹中ガバナー事務所開設	
	11(土)	10～	第1回ガバナー諮問委員会	ホテルメトロポリタン高崎
	11(土)	13～	第4回地区ラーニング・管理運営委員会	ホテルメトロポリタン高崎
	16(木)	18:30～	<ロータリー野球大会コミッショナー会議>	ニューいづみ
	18(土)	午前	(インターアクト年次大会)	メガネのイタガキ文化ホール
	25(土)	10:00～	★ロータリー財団委員会合同会議	前橋問屋センター会館
	25(土)	15:30～	★米山記念奨学生対象ロータリーセミナー	ホテルメトロポリタン高崎
	25(土)	17:30～	★(米山学友会総会)	ホテルメトロポリタン高崎
8月	01(土)	9～	(第1回地区補助金委員会)	前橋問屋センター会館
	08(土)	13～	(RLIファシリテーター研修会)	前橋問屋センター会館
	23(日)	午後	(青少年交換派遣学生選考会)	前橋問屋センター会館
	26(水)	12～	(米山指定校説明会)	前橋問屋センター会館
	29(土)	午前	<ロータリー野球大会第1日目開会式>	前橋桃ノ木川グラウンド
	30(日)	13:30	～クラブ活性化ワークショップ	前橋問屋センター会館
9月	01(火)		湯澤ガバナーエレクト事務所開設	
	05(土)	午後	ロータリー財団補助金管理セミナー	前橋問屋センター会館
	06(日)	終日	(RLIセミナーPartⅠ)	前橋問屋センター会館
	12(土)	午前	<ロータリー野球大会第2日目>	前橋桃ノ木川グラウンド
	19(土)	午前	<ロータリー野球大会第3日目>	前橋桃ノ木川グラウンド
	26(土)	午前	(米山記念奨学生カウンセラー研修会)	前橋問屋センター会館
	26(土)	午後	(地区米山記念奨学セミナー)	前橋問屋センター会館
	27(日)	12:30～	(青少年交換派遣学生帰朝報告会・受け入れ学生歓迎会)	
10月	04(日)	終日	(RLIセミナーPartⅡ)	前橋問屋センター会館
	17(土)	午前	<ロータリー野球大会第4日目閉会式>	前橋桃ノ木川グラウンド
	17(土)	午前	第2回ガバナー諮問委員会	前橋問屋センター会館
	17(土)	午後	第3回ガバナー補佐・委員長合同会議	前橋問屋センター会館
	17(土)	15:30～	第5回地区ラーニング・管理運営委員会	ガバナー事務所
11月	07(土)	9～	(第2回地区補助金委員会)	前橋商工会議所会館
	07(土)	午前	<ロータリー野球大会予備日>	前橋桃ノ木川グラウンド
	08(日)	終日	(RLIセミナーPartⅢ)	前橋問屋センター会館
	22(日)		新会員セミナー	
	28(土)	午後	(米山記念奨学生選考会面接員オリエンテーション)	ホテルメトロポリタン高崎
	28(土)	夕方	(米山学友会忘年会)	ホテルメトロポリタン高崎
12月	05(土)	午後	第3回ガバナー諮問委員会	ロイヤルチェスター前橋
	05(土)	夕方	湯澤ガバナーエレクト壮行会	ロイヤルチェスター前橋
	12(土)		(RYLA研修セミナー)	(桐生)
	20(日)		(青少年交換HC・SCオリエンテーション・クリスマス会)	ホテルサンダーソン

日付	時間帯	項目	場 所
2027年			
1月	10(日)～14(木)	国際協議会（湯澤ガバナーエレクト参加）	オーランド（フロリダ州）
	17(日)	午後（奉仕プロジェクトセミナー）	前橋問屋センター会館
	23(土)	終日（米山記念奨学生選考会）	前橋問屋センター会館
	23(土)	13:00～（第1回地区補助金予備審査会）	前橋商工会議所会館
2月	13(土)	午前第4回ガバナー諮問委員会・GE 報告会	前橋問屋センター会館
	13(土)	午後地区チームラーニングセミナー（湯澤年度）	前橋問屋センター会館
	20(土)	13:00～（第2回地区補助金予備審査会）	前橋商工会議所会館
	21(日)	午後青少年交換 HC・SC オリエンテーション	
	23(火・祝)	ロータリー創立記念日	
3月	6(土)	17:00～（米山記念奨学生終了式・歓送会）	ホテルメトロポリタン高崎
	13(土)～14(日)	会長エレクト・次年度幹事ラーニングセミナー（湯澤年度）	前橋商工会議所会館
	20(土)～21(日)	第39回全国ローターアクト大会	伊香保天坊
	25(木)～28(日)	（インターアクト台湾国際交流事業・派遣）	
4月	03(土)	午前第5回ガバナー諮問委員会前橋問屋センター会館	前橋問屋センター会館
	03(土)	午後第4回ガバナー補佐・委員長合同会議	前橋問屋センター会館
	03(土)	15:30～第6回地区ラーニング・管理運営委員会	前橋問屋センター会館
	17(土)	9:00～（第3回地区補助金予備審査会）	前橋商工会議所会館
	17(土)	午前（新規米山記念奨学生カウンセラーオリエンテーション）	前橋問屋センター会館
	17(土)	午後（新規米山記念奨学生・カウンセラーオリエンテーション）	前橋問屋センター会館
	17(土)	午後（継続米山記念奨学生資格審査面談）	前橋問屋センター会館
	23(金)～24(土)	（インターアクト台湾国際交流事業・受入れ）	
	24(土)	午後地区リーダーシップセミナー	ホテルメトロポリタン高崎
	24(土)	夜RI 会長代理歓迎晩餐会	ホテルメトロポリタン高崎
	25(日)	午後地区大会式典	群馬音楽センター
	25(日)	夜地区大会懇親会	ホテルメトロポリタン高崎
		ローターアクト会長エレクト・次年度幹事ラーニングセミナー	
		地区大会記念ゴルフ大会	
5月	15(土)	13:00～地区補助金最終審査会	前橋商工会議所会館
	16(日)	午後青少年交換 HC オリエンテーション	※
	23(日)	終日クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー（湯澤年度）	前橋商工会議所会館 ※
6月	05(土)	午後新会員セミナー	
	07(月)	14～クラブ管理運営セミナー（湯澤年度）	
	12(土)	（ローターアクト年次大会）	
	19(土)	午後第6回ガバナー諮問委員会	
	19(土)	午後現新地区役員合同連絡会議	
	26(土)～30(水)	国際大会バルセロナ	バルセロナ
		第6回ガバナー諮問委員会	
		現新地区役員合同連絡会議	
	27(日)	（青少年交換受入学生歓迎会・派遣学生壮行会）	
		（米山記念奨学生指定校選定会議）	

※クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー（湯澤年度）が上記の5月23日（日）に変更となりました。

※青少年交換 HC オリエンテーションが上記の5月16日（日）に変更となりました。

2026-2027 年度 周年行事・IM 開催予定表

2026-2027 年度 周年行事予定クラブ

年	月	日	曜日	周年	クラブ名	場 所
2026	11	8	日	55	桐生西RC	美喜仁桐生文化会館
2027	2	27	土	60	大泉RC	太田グランドホテル(予定)
2027	3	6	土	70	太田RC	ロイヤルチェスター太田
2027	4	10	土	70	渋川RC	プレヴェール渋川
2027	4	16	金	35	太田中央RC	ダニエルハウス
2027	4	17	土	50	前橋東RC	ロイヤルチェスター前橋
2027	5	29	土	65	高崎南RC	ホテルメトロポリタン高崎
2027	5			45	前橋北RC	前橋商工会議所会館
2027	6	12	土	30	桐生赤城RC	未定
未定				55	太田西RC	未定

2026-2027 年度 IM 開催予定表

年	月	日	曜日	区 分	場 所
				第1分区	
				第2分区A	
				第2分区B	
				第3分区	
				第4分区A	
				第4分区B	
				第5分区	
				第6分区	



二度目の奇跡へ：ポリオ根絶という人類の使命

腕に残る「勲章」と、人類の勝利

第1 地域 ポリオ根絶コーディネーター(EPNC) 松田 英郎（富良野 RC）

1980 年、人類は医学史における最大の宿敵の一つであった天然痘を、この地球上から完全に根絶しました。私と同世代の方々であれば、自らの腕に刻まれた「種痘」の跡を覚えているはずです。小さな針がついたスタンプを押し、皮膚を傷つけてワクチンを塗り込むその手法は、決して洗練されたものとは言えません。化膿し、瘢痕として残るその跡は、現代の審美的な価値観からすれば「コスメチック」ではないかもしれません。しかし、その跡こそが、かつて人類を震え上がらせた死の恐怖から私たちが解放された証であり、人類が英知を結集して勝ち取った「勝利の勲章」でもありました。

天然痘の根絶から 45 年が経過しようとしている今、私たちは二番目のウイルス、ポリオ（小児麻痺）をこの世から消し去ろうとする歴史的転換点に立っています。



ここでもう一人のポールを紹介します。

かつてポリオは、世界中で子どもたちの未来を奪う恐怖の象徴でした。その記憶を呼び覚ます装置が「鉄の肺」です。かつてサンディエゴで開催され世界協議会に参加した際、私は会場に展示されていたその実物を目にしました。学生時代に文献で見て「こんな大きなタンクの中に人を閉じ込めるのか」と驚愕した記憶が鮮明に蘇りました。現在の人工呼吸器の先駆けとなったこの巨大な装置は、かつて日本でも流行時に導入されていました。

2024 年 3 月、この鉄の肺の中で 70 年以上を過ごした「ポリオサバイバー」のもう一人のポール、ポール・アレクサンダー氏が亡くなりました。彼は感染によって呼吸筋が麻痺しながらも、不屈の精神で弁護士資格を取得し、社会復帰を果たしました。彼の功績は称賛に値しますが、同時に、彼が歩んだ一生がいかに険しく、過酷な闘いであったかを思わずにはいられません。ポリオによる弛緩性麻痺は、四肢の自由を奪うだけでなく、呼吸という生命の根幹をも脅かします。その重症度は個体の免疫力や抵抗力によって様々ですが、一人の人生をこれほどまでに縛り付ける病を、私たちは決して看過してはならないのです。ポリオの恐ろしさは、その潜伏性と広がり速さにあります。実際に麻痺を起こすのは感染者の 0.1% から 1% 程度に過ぎません。しかし、残りの 99% 以上は症状が出ない「不顕性感染」であり、本人が気づかぬうちにウイルスを排出します。つまり、一人の有症状患者が発生したとき、その背後にはすでに 1,000 人以上の感染者が潜んでいることを意味します。

ウイルスは人間の体内でしか増殖できません。だからこそ、下水道などの環境サーベイランス（監視体制）が極めて重要となります。2024 年、パレスチナ自治区ガザ地区において戦闘を一時中断してまでワクチン接種が行われたのは、劣悪な衛生環境下で排出されたウイルスが、無防備な子どもたちの体内に入る連鎖を断ち切るためでした。たとえ戦火の中にあっても、ウイルスは国境も思想も関係なく牙を剥きます。ワクチン接種は、今この瞬間も子どもたちの命を守る唯一の盾なのです。

幸いなことに、ポリオウイルスは抗原性の変化が少なく、かつて日本を救ったワクチンが今なお有効です。しかし、課題は山積しています。これまで主流だった生ワクチンは、稀にワクチン由来のポリオを発症させるリスクを孕んでいます。一方、そのリスクを排除した「不活化ワクチン」を世界中に届けるには、莫大なコストと物流網が必要で現実的ではありません。

また、ポリオ根絶は単なる医療の問題に留まりません。安全な水の供給、徹底した公衆衛生教育、そして何よりも安定した社会基盤が必要です。ウイルスを消し去ることは、その国や地域の生活水準を底上げすることと同義なのです。

2031年まで根絶目標が延長されましたが、これは決して敗北ではありません。最後の一步をより確実に、一人の取りこぼしもなく踏み出すための「決意の再設定」であると捉えるべきでしょう。

かつて日本もポリオの流行に苦しみ、当時の母親たちが立ち上がり、生ワクチンの緊急輸入を実現させた歴史があります。現在の日本は、全くワクチン由来のポリオが発生しない不活化ワクチンへと移行していますが、この平和な日常は先人たちのあらがうような努力の上に成り立っています。

ロータリークラブをはじめとする世界ポリオ根絶イニシアチブ(GPEI)が担う役割は、もはや単なる医療支援の枠を超えています。それは、グローバル化の中で失われつつある「他者への献身」を呼び覚まし、地球上のどこに生まれても「呼吸する自由」と「歩む権利」を保障するための平和運動です。ただ、GPEI に対してイギリス政府が 2026 年以降直接的な支援を中止したという報告は極めて残念と言うしかありません。

かつて私が開業した 1991 年、バブル崩壊や湾岸戦争による資材高騰という逆風の中、先人たちは日本の未来を守るために汗をかいてきました。今、私たちが次世代に残すべきは、卑屈感ではなく、世界を救ったという確かな「プライド」です。

ポリオという言葉が歴史の教科書の中にだけ存在する世界を。その実現のために、皆様のさらなるご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



第2地域 ロータリー会員増強コーディネーター 若林 英博（東京麹町 RC）

突然ではございますが、「コーディネーターニュース」は、今期で一区切りとなり、今後は『ロータリーの友』へ引き継がれる予定と伺っております。前任の野口英一 RMC から引き継ぎ、2025年8月号から本号まで、原稿の取りまとめを担当いたしました。この一年間、ご多用の中で執筆にご協力くださいました地域リーダーの皆さまに、心より御礼申し上げます。お寄せいただいた貴重なご意見や実践例は、読者にとって大切な情報として積み重なり、今後のクラブ活性の一助となるものと確信しております。



さて、4月のクラブ活性化セミナーでは、「会員がやめないクラブづくり」～みんなで語り合おう～をテーマに、退会防止に焦点を当てた参加型プログラムを実施しました。我々 RMC は初日の午後のセッションを担当し、基調プレゼンテーション、分科会、まとめまで、年明けから準備を重ねてまいりました。

特に大切にしたのは、「退会は“届”の話ではなく、心の中で起きている“水位”の話である」という視点です。退会届が出るずっと前から、会員の心には不満、違和感、疲れ、孤立感などが少しずつたまっているのではないかと。その水位に、私たちはどれだけ気づけているのかを共有しました。

ブレインストーミングでは、「会員のコップの水は、どんな時に増え、どんな時に減るのか」を話し合い、シナリオ演習では、役割や期待、周囲の言葉、小さな出来事が水位に与える影響を考えました。個人ワークでは、「防げた退会・防ぐべきだった退会」を振り返り、各地区で活用できる気づきや実践例を共有しました。

会員増強と退会防止は、両輪です。新しい会員を迎えるだけでなく、今いる会員が価値を感じ、居場所を持ち、ロータリー活動を続けたいと思える環境づくりが欠かせません。退会防止とは、退会届が出てから引き止めることではありません。会員一人ひとりの水位に早く気づき、声をかけ、名前を呼び、役割を託し、感謝を伝え、「あなたが必要です」という思いを届けていくことだと思います。今回の内容が、もっと元気なクラブづくりにつながれば幸いです。

なお、当日の資料やデータは、JAPAN PORTAL SITE に掲載されております。ぜひ各地区でご自由にご活用ください。

あわせて、本誌の発行を支えてくださいました国際ロータリー日本事務局の皆さまにも、厚く御礼申し上げます。



ARMC の黒川伸一さん(KUROCHAN)、樋口明さん(GUCCI)、白鳥敬日瑚さん(Swan)には、ロータリー研究会、活性化セミナーのいずれにおいても、準備から当日の寸劇まで大変お世話になりました。皆さまと一緒に笑いながら取り組めた時間は、私にとって大切な思い出です。心強い仲間に出会えたことに、心より感謝申し上げます。

なお、黒川さんは 2025-26 年度をもって ARMC をご卒業されます。これまで本当にありがとうございました。



地域リーダーの醍醐味について

第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 瀧 満（中津 RC）

RPIC を拝命し、あっという間の1年が過ぎました。第3地域のガバナー、多くのクラブの皆様を支えられ、私のロータリーライフに新たなページを刻むことができました。任期はあと2年ありますが、地域リーダーの醍醐味をお伝えし、この役職を今から引き継いで頂く事になるロータリー会員の参考になればと考え、この紙面を使わせて頂く事にしました。



《地域リーダーの醍醐味》

1. Global Support Seminar (GSS)

エバンストンのワン・ロータリー・センターでの研修は世界各地から集まった地域リーダー約50名が毎日4コマのセッションを通じて、ロータリーの本質を掘り下げてゆきます。ロータリーの中核的価値観を体現できる最高のセミナーです。

2. ロータリーを俯瞰できるポジション

エバンストンで経験した世界のロータリー会員との交流で、クラブや地区の視点を超えた広い視野でロータリーを見る事が出来るようになりました。

3. 日本のロータリーの運営に携われる幸運

クラブや地区のことしか知らなかった私にとって、日本のロータリー会員全体のために日々尽力されている RI 理事他の多くの役職のご苦勞を目の当たりにし、そのお手伝いができることに誇りを感じるようになりました。

4. クラブ、地区を超えた交流

各地区、各クラブのセミナーや地区大会での講演に招かれ、私の今までの経験やGSSで研修して来た内容を伝えてゆく過程で生まれた全国的なロータリー会員とのネットワークは私の人生を大いに豊かにしてくれました。



最後に、ロータリー公共イメージコーディネーターとしての活動の1コマを紹介させていただきます。掲載の写真は、2720 地区で行われました“ポリオ根絶カラオケチャリティー大会”に参加した一コマです。皆様のクラブでの積極的なイメージアップ活動を期待しております。

出席報告（5 月末日現在）・ My Rotary 登録率

クラブ数	年度初（女性）	当月初（女性）	新会員（女性）	退会数（女性）	月末数（女性）	純増減（女性）
44	2001(176)	2030(184)	27(3)	33(4)	2024(183)	23(7)
	自クラブ出席率		当月出席率（メイク含む）		MyRotary 登録率 （6月24日現在）	
	64.4%		74.2%		77.06%	

※純増減は年度初の会員数との対比となります。

クラブ名		回数	自クラブ 出席率	会員数（純増減は年度初数との対比となります）								メイク	出席率	MyRotary 登録率 (6月24日現在)				
				年度初 （女性）		当月初 （女性）		新会員 （女性）	退会数 （女性）	月末数 （女性）					純増減 （女性）			
第1分 区	前橋	3	56.27%	117	(11)	115	(11)	8	(2)	0	(0)	123	(13)	6	(2)	9	58.83%	87.80%
	前橋西	4	60.73%	56	(5)	55	(6)	0	(0)	0	(0)	55	(6)	-1	(1)	28	74.62%	83.64%
	前橋東	3	40.70%	50	(4)	51	(4)	0	(0)	0	(0)	51	(4)	1	(0)	27	59.76%	80.39%
	前橋北	3	82.09%	79	(1)	77	(1)	2	(0)	0	(0)	79	(1)	1	(0)	3	82.09%	83.54%
	前橋南	3	50.03%	56	(5)	51	(3)	0	(0)	1	(0)	50	(3)	-6	-(2)	8	53.32%	84.00%
	前橋中央	3	68.01%	23	(5)	24	(5)	0	(0)	0	(0)	24	(5)	1	(0)	8	79.17%	83.33%
	合計		59.64%	381	(31)	373	(30)	10	(2)	1	(0)	382	(32)	1	(1)		67.97%	83.79%
第2分 区A	桐生	3	56.54%	71	(12)	70	(12)	1	(0)	0	(0)	71	(12)	0	(0)	48	68.37%	81.94%
	桐生南	3	55.34%	37	(4)	36	(3)	0	(0)	0	(0)	36	(3)	-1	-(1)	21	76.17%	66.67%
	桐生西	4	68.05%	49	(11)	51	(11)	1	(0)	1	(0)	51	(11)	2	(0)	24	80.07%	92.16%
	桐生赤城	3	70.13%	39	(7)	42	(7)	0	(0)	0	(0)	42	(7)	3	(0)	25	90.30%	80.95%
	合計		62.52%	196	(34)	199	(33)	2	(0)	1	(0)	200	(33)	4	-(1)		78.73%	80.43%
第2分 区B	伊勢崎	3	80.00%	79	(5)	83	(5)	0	(0)	27	(3)	56	(2)	-23	-(3)	8	92.53%	98.21%
	群馬境	4	79.55%	23	(2)	24	(2)	0	(0)	0	(0)	24	(2)	1	(0)	0	79.55%	41.67%
	伊勢崎中央	3	80.95%	88	(9)	99	(9)	1	(0)	0	(0)	100	(9)	12	(0)	16	86.39%	74.00%
	伊勢崎南	3	76.00%	25	(2)	25	(2)	0	(0)	0	(0)	25	(2)	0	(0)	2	78.67%	100.00%
	伊勢崎東	3	60.46%	34	(2)	42	(3)	0	(0)	0	(0)	42	(3)	8	(1)	0	60.46%	95.24%
	合計		75.39%	249	(20)	273	(21)	1	(0)	27	(3)	247	(18)	-2	-(2)		79.52%	81.82%
第3分 区	高崎	3	55.02%	138	(10)	144	(12)	3	(1)	1	(1)	146	(12)	8	(2)	20	59.59%	55.48%
	高崎南	3	62.50%	66	(10)	63	(10)	1	(0)	0	(0)	64	(10)	-2	(0)	9	76.56%	50.00%
	高崎北	3	40.64%	77	(0)	74	(0)	2	(0)	0	(0)	76	(0)	-1	(0)	35	56.62%	60.76%
	高崎東	4	53.45%	26	(3)	28	(4)	2	(0)	0	(0)	30	(4)	4	(1)	8	60.35%	73.33%
	高崎シンフォニー	3	70.92%	45	(9)	47	(10)	0	(0)	0	(0)	47	(10)	2	(1)	19	84.40%	100.00%
	高崎セントラル	3	63.37%	33	(0)	34	(1)	0	(0)	0	(0)	34	(1)	1	(1)	10	73.27%	58.82%
	合計		57.65%	385	(32)	390	(37)	8	(1)	1	(1)	397	(37)	12	(5)		68.47%	66.40%

クラブ名		回数	自クラブ 出席率	会員数 （純増減は年度初数との対比となります）								メイ ク	出席率	MyRotary 登録率 (6月24日現在)				
				年度初 (女性)		当月初 (女性)		新会員 (女性)		退会数 (女性)					月末数 (女性)		純増減 (女性)	
第4 分区 A	太田	4	56.33%	70	(3)	70	(3)	2	(0)	0	(0)	72	(3)	2	(0)	5	58.09%	100.00%
	太田西	3	75.76%	11	(1)	11	(1)	0	(0)	0	(0)	11	(1)	0	(0)	6	100.00%	63.64%
	太田南	2	57.00%	47	(4)	50	(5)	0	(0)	0	(0)	50	(5)	3	(1)	1	58.00%	100.00%
	新田	3	57.91%	21	(3)	19	(3)	0	(0)	0	(0)	19	(3)	-2	(0)	4	64.91%	45.00%
	太田中央	3	50.98%	46	(5)	51	(7)	0	(0)	1	(0)	50	(7)	4	(2)	4	53.96%	90.00%
	合計		59.60%	195	(16)	201	(19)	2	(0)	1	(0)	202	(19)	7	(3)		66.99%	79.73%
第4 分区 B	館林	4	70.50%	55	(4)	52	(4)	0	(0)	0	(0)	52	(4)	-3	(0)	17	79.00%	86.79%
	大泉	2	65.00%	25	(3)	25	(3)	0	(0)	0	(0)	25	(3)	0	(0)	6	80.00%	24.00%
	館林東	2	80.00%	6	(1)	9	(1)	0	(0)	0	(0)	9	(1)	3	(0)	1	100.00%	44.44%
	館林ミレニアム	2	68.91%	27	(1)	27	(1)	0	(0)	0	(0)	27	(1)	0	(0)	3	76.81%	100.00%
	合計		71.10%	113	(9)	113	(9)	0	(0)	0	(0)	113	(9)	0	(0)		83.95%	63.81%
第5 分区	渋川	3	74.73%	58	(5)	57	(7)	0	(0)	0	(0)	57	(7)	-1	(2)	23	87.93%	66.13%
	沼田	3	53.16%	73	(3)	73	(3)	0	(0)	0	(0)	73	(3)	0	(0)	24	59.93%	98.63%
	中之条	4	71.31%	16	(0)	16	(0)	0	(0)	0	(0)	16	(0)	0	(0)	2	76.72%	56.25%
	沼田中央	3	59.42%	49	(4)	49	(4)	0	(0)	0	(0)	49	(4)	0	(0)	24	76.81%	100.00%
	渋川みどり	3	36.78%	48	(6)	46	(6)	0	(0)	1	(0)	45	(6)	-3	(0)	12	45.91%	95.56%
	合計		59.08%	244	(18)	241	(20)	0	(0)	1	(0)	240	(20)	-4	(2)		69.46%	83.31%
第6 分区	富岡	3	85.90%	41	(3)	43	(3)	1	(0)	0	(0)	44	(3)	3	(0)	8	93.42%	61.36%
	藤岡	3	73.99%	43	(3)	43	(3)	1	(0)	1	(0)	43	(3)	0	(0)	9	81.31%	80.95%
	安中	3	41.51%	56	(3)	56	(2)	1	(0)	0	(0)	57	(2)	1	-(1)	35	61.98%	54.39%
	藤岡北	2	92.85%	7	(1)	7	(1)	0	(0)	0	(0)	7	(1)	0	(0)	0	92.85%	57.14%
	富岡中央	3	79.55%	37	(3)	35	(3)	1	(0)	0	(0)	36	(3)	-1	(0)	6	85.40%	74.29%
	碓氷安中	2	64.28%	7	(0)	7	(0)	0	(0)	0	(0)	7	(0)	0	(0)	0	64.28%	71.43%
	藤岡南	2	68.00%	18	(0)	18	(0)	0	(0)	0	(0)	18	(0)	0	(0)	3	80.00%	66.67%
	富岡かぶら	3	52.69%	29	(3)	31	(3)	0	(0)	0	(0)	31	(3)	2	(0)	20	72.04%	54.84%
	合計		69.85%	238	(16)	240	(15)	4	(0)	1	(0)	243	(15)	5	-(1)		78.91%	65.13%
	ぐんま伊勢崎	2	61.40%	0	(0)	28	(2)	7	(0)	0	(0)	35	(2)	7	(0)	0	61.0%	71.43%

新会員紹介



氏 名 **黒崎 裕之**
ク ラ ブ 伊勢崎
入 会 日 2026 年 4 月 8 日
職業分類 商業銀行
勤 務 先 (株)群馬銀行
役 職 伊勢崎支店長
推 薦 者 中川 一



氏 名 **松田 茂樹**
ク ラ ブ 高崎南
入 会 日 2026 年 6 月 2 日
職業分類 金融業
勤 務 先 群馬銀行 高崎田町支店・
高崎北支店・高崎西支店
役 職 支店長
推 薦 者 黒澤 弘



氏 名 **安田 裕一**
ク ラ ブ 高崎南
入 会 日 2026 年 6 月 9 日
職業分類 証券取引業
勤 務 先 野村證券(株)高崎支店
役 職 支店長
推 薦 者 黒澤 弘



氏 名 **赤尾 佳子**
ク ラ ブ 高崎北
入 会 日 2026 年 6 月 3 日
職業分類 燃料販売
勤 務 先 AKAO ホールディングス
株式会社
役 職 代表取締役社長
推 薦 者 竹中 隆・北形信也



氏 名 **高橋 新吾**
ク ラ ブ 高崎北
入 会 日 2026 年 6 月 10 日
職業分類 外構工事
勤 務 先 有限会社 ABC ガーデنز
役 職 代表取締役
推 薦 者 堀込敏彦・清水 剛



氏 名 **稲葉 勇太**
ク ラ ブ 高崎東
入 会 日 2026 年 5 月 1 日
職業分類 生命保険業
勤 務 先 ソニー生命保険株式会社
役 職 ライフプランナー
推 薦 者 林 克俊



氏 名 **長澤 一平**
ク ラ ブ 高崎東
入 会 日 2026 年 5 月 1 日
職業分類 生命保険業
勤 務 先 ソニー生命保険株式会社
役 職 ライフプランナー
推 薦 者 林 克俊



氏 名 **伊澤 尚樹**
ク ラ ブ 館林
入 会 日 2026 年 4 月 17 日
職業分類 商業銀行
勤 務 先 群馬銀行館林支店
役 職 支店長
推 薦 者 小暮雅丈・谷田川敏幸



氏 名 **高澤 みゆき**
ク ラ ブ 館林
入 会 日 2026 年 6 月 1 日
職業分類 人材派遣業
勤 務 先 ジョブエイド(株)
役 職 代表取締役
推 薦 者 関井宏一・新井律子



氏 名 **清水 健太**
ク ラ ブ 富岡
入 会 日 2026 年 5 月 27 日
職業分類 デザイン・広告
勤 務 先 有限会社 シミズエ芸
役 職 代表取締役
推 薦 者 木本裕之



氏 名 佐藤 博
ク ラ ブ 富岡中央
入 会 日 2026 年 5 月 21 日
職業分類 生命保険
勤 務 先 日本生命保険相互会社
下仁田営業部
役 職 営業部長
推 薦 者 佐藤正宏



氏 名 上原 聡
ク ラ ブ 安中
入 会 日 2026 年 4 月 7 日
職業分類 建築業
勤 務 先 (株) サンワークス
役 職 代表取締役
推 薦 者 佐藤宗孝



氏 名 高橋 宏
ク ラ ブ 安中
入 会 日 2026 年 5 月 12 日
職業分類 非鉄金属
勤 務 先 東邦亜鉛(株)安中製錬所
役 職 製錬所長
推 薦 者 高橋康司

訃 報



太田中央ロータリークラブ

川田政雄 (享年70歳)

入会日 1997年 9月 5日 入会

逝去日 2026年 5月17日

川田電気商会 代表

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー 1回
第2回米山功労者

川田 政雄 様

川田政雄さんは、1997年に当クラブに入会し28年の長きに渡りクラブ運営や奉仕活動等、ロータリー活動に積極的に取り組まれご尽力されてきました。

ゴルフや車を趣味にし、お酒をこよなく愛し友との語らいをととても大切にする人でした。ロータリー活動は続けることに意義があるという見本を行動で示されました。太田中央ロータリークラブの誇りであります。

生前の貢献に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。どうぞ安らかに眠りください。

会長 松本 徹

新会員入会実績報告（5 月末日現在）

クラブ名	年度初	新会員 入会目標	新会員 入会実績	達成率	目標残
43	2001	158	159	101%	-1

クラブ名		年度初	入会 目標	入会 実績	目標残	達成率
第1分区	前橋	117	8	20	-12	250.0%
	前橋西	56	2	1	1	50.0%
	前橋東	50	5	2	3	40.0%
	前橋北	79	4	3	1	75.0%
	前橋南	56	7	0	7	0.0%
	前橋中央	23	2	2	0	100.0%
	合計	381	28	28	0	100.0%
第2分区A	桐生	71	5	8	-3	160.0%
	桐生南	37	2	2	0	100.0%
	桐生西	49	6	5	1	83.3%
	桐生赤城	39	2	3	-1	150.0%
	合計	196	15	18	-3	120.0%
第2分区B	伊勢崎	79	7	5	2	71.4%
	群馬境	23	3	3	0	100.0%
	伊勢崎中央	88	5	15	-10	300.0%
	伊勢崎南	25	3	1	2	33.3%
	伊勢崎東	34	6	8	-2	133.3%
	合計	249	24	32	-8	133.3%
第3分区	高崎	138	10	17	-7	170.0%
	高崎南	66	3	4	-1	133.3%
	高崎北	77	3	4	-1	133.3%
	高崎東	26	5	4	1	80.0%
	高崎シンフォニー	45	3	2	1	66.7%
	高崎セントラル	33	2	2	0	100.0%
	合計	385	26	33	-7	126.9%

クラブ名		年度初	入会 目標	入会 実績	目標残	達成率
第4分区A	太田	70	5	5	0	100.0%
	太田西	11	2	0	2	0.0%
	太田南	47	2	4	-2	200.0%
	新田	21	3	1	2	33.3%
	太田中央	46	3	5	-2	166.7%
	合計	195	15	15	0	100.0%
第4分区B	館林	55	5	1	4	20.0%
	大泉	25	4	1	3	25.0%
	館林東	6	8	3	5	37.5%
	館林ミレニアム	27	3	1	2	33.3%
	合計	113	20	6	14	30.0%
第5分区	渋川	58	3	5	-2	166.7%
	沼田	73	2	3	-1	150.0%
	中之条	16	1	1	0	100.0%
	沼田中央	49	6	2	4	33.3%
	渋川みどり	48	2	1	1	50.0%
	合計	244	14	12	2	85.7%
第6分区	富岡	41	3	3	0	100.0%
	藤岡	43	2	2	0	100.0%
	安中	56	2	5	-3	250.0%
	藤岡北	7	1	0	1	0.0%
	富岡中央	37	2	2	0	100.0%
	碓氷安中	7	2	1	1	50.0%
	藤岡南	18	2	0	2	0.0%
	富岡かぶら	29	2	2	0	100.0%
	合計	238	16	15	1	100.0%

＊上記の数値は新会員入会者のみの目標および実績を表記しております。退会者数はカウントしておりません。
よって各クラブの現在の会員数を示すものではありません。

ガバナーより一言 — 2025-2026年度を振り返って —

あっという間の1年でした。と言うより、ガバナーノミニーデジグネートからの3年半を一気に駆け抜けたような気持ちです。

本格始動は、昨年1月のオランダでの国際協議会でした。あの濃密な研修を経て、RI会長エレクトの方針をもとにまとめたガバナー方針、それに基づく地区方針や地区事業の修正、各委員長への発信からすべてが始まりました。

帰国後すぐに地区チームラーニングセミナーを開催し、久しぶりの宿泊を伴う会長エレクト・次年度幹事ラーニングセミナーを実施いたしました。

年度開始前にはクラブリーダーシップ・ラーニングセミナーやクラブ管理運営セミナー、開始後にはクラブ活性化ワークショップを開催いただきましたが、今振り返ると、“誰に”、“何を”伝えるかが少しぼやけていたようにも感じます。しかし、地区最大の行事である「地区大会」では、その時点で考えるベストを尽くしたつもりです。

それぞれの地区事業にご参加いただいた会員の皆様、開催にあたりご協力いただきました皆様に、あらためて心より感謝申し上げます。

公式訪問では、各クラブの皆様にご負担をおかけいただきましたが、懇談会やクラブ協議会を通じて、それぞれのクラブへの理解が深まりました。

公式訪問以外でも「ガバナー、今度、うちのクリスマス例会に来てもらえますか?」「クラブの新会員セミナーに来てもらえますか?」とお声がけいただき、多くのクラブにお邪魔させていただけたことは大変嬉しく、何うたびに楽しい時間を過ごさせていただきました。

ガバナー補佐の皆様にお骨折りいただいたIMでは、お願いした当初の目的を深くご理解いただき、素晴らしい成果が得られたと思います。

委員会では、各委員長の皆様を中心に活発な活動を行っていただきました。委員会の担当事業は元より、セミナーの開催など、地区内クラブ、会員、参加者への多大なご協力に感謝いたします。

地区内クラブ会長をはじめとする会員の皆様、地区役員の皆様、そして私をガバナーとして支え続けてくださったガバナースタッフの皆様へ、心より感謝申し上げます。

地区内の皆様にお支えいただきましたのと同様に、同期ガバナーにも本当に助けられました。ガバナーノミニーデジグネートとして顔を合わせて以来、直接会ったのは20回ほどで、共に過ごした時間は限られていましたが、ガバナーという役職の重さを共有しているというだけで、学生時代からの友人や親友のように励まし合うことができました。

それだけに残念でならないのは、国際協議会参加直後にお一人、昨年秋にもうお一人、ガバナーの職を全うすることなく亡くなられたことです。なぜこんなに悲しいのかと思うほど切なく、寂しく、辛い出来事でした。

この大役を務めさせていただき、私はロータリアンとしてだけでなく、一人の人間として成長させていただきました。60 歳を過ぎ、会社の仕事も社会活動も何となく惰性になりかけていた時に、もう一度、真剣に取り組まなければならないものを与えていただき、自分を奮い立たせることができました。

これまで皆様には、ロータリーも仲間づくり、街づくりの一つの活動だとお話しさせていただき、その中でもロータリーの優先順位（プライオリティー）を一つでも上位に位置付けていただきたいと訴えてまいりました。

会員増強や奉仕プロジェクトの実施は、最終目的ではありません。私たちの本当の目的は、会員一人一人がロータリーの中核的価値観に基づき、四つのテストを実践し、ロータリーのビジョン声明に掲げる世界を創ることです。

クラブの会長やリーダーは、クラブの将来、そして地域内のこれからの会員に責任があり、その責任を果たさなくてはなりません。クラブの将来を描けない、地域で必要とされないクラブは、いつか無くなってしまうかもしれないからです。

そうならないためには、クラブリーダーだけでなく、会員すべてがクラブの将来を考え、目先・小手先ではない「将来に向けた変化のトレンド」をクラブ内に創り上げなくてはならないのではないのでしょうか。

クラブ会長やクラブリーダーは、ロータリーを会員のライフスタイルの中にしっかり根付かせ、参加への意欲を高めなくてはなりません。そのためには、リーダーの熱量、すなわち会員を鼓舞し、鼓舞し続ける熱量が不可欠です。

ロータリーとは、何なのか？

ロータリアンにとって、ロータリーは本当に価値あるものなのか？

私たちロータリアンは、クラブは、ロータリーは、どこへ向かうのか？

この問いに真摯に向き合う中で、現在、私の中ではロータリーが最上位にあり、頭の中はほぼロータリーで占められています。だからこそ、もう一年ガバナーを務めさせていただきますが、地区内クラブの活動の充実、地区内会員のクラブライフ、ロータリーライフの充実のために、クラブ奉仕があるように、私はロータリアンへの奉仕を献身的に行います。

引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ガバナーより一言 — 2026台北国際大会に参加して —

台北で開催された国際大会に参加するため、6月13日から18日まで訪台してきました。

6月13日: 友好クラブとの合同パーティーとインターアクト事業

13日には、インターアクトの交流事業で関係の深い“三重中央ロータリークラブ”の友好クラブである京都桂川ロータリークラブとの合同パーティーに、湯澤ガバナーノミニ（現ガバナーエレクト）、桐生西ロータリークラブの山形会長、河内幹事と参加しました。

交流を深めるだけでなく、今後のインターアクト事業への協力を、台湾 3490 地区の Archi 同期ガバナーとも確認できました。

Archi ガバナーからは、地区内クラブ同士の友好クラブとしての新規交流を持ちかけられました。ご興味のある方は、ぜひお声がけください。

6月14日: 日本人朝食会と華やかな開会式、そして地区ナイト

14日は、“RI理事主催の日本人朝食会”に参加しました。台湾総統が参加されるということもあり、午前7時開会にもかかわらず、午前5時過ぎには登録し、厳重なセキュリティーチェックを受けなければなりません。水野RI理事主催ということで、RI会長、RI会長エレクト、水野RI理事の同期理事が参加し、総勢1,000名の熱気あふれる朝食会となりました。2840地区からも、竹内PG、田中PGをはじめ多くの皆様に参加いただきました。

私はガバナーエレクトとしてパートナーと参加しましたが、同期ガバナーと写真を撮るときのためにガバナージャケットを持っていき、その都度着替えるという、まるでコウモリみたいなことをしてしまいました。

午後からは、大会のメイン行事である“開会式”に参加しました。開会式は非常に華やかで、RI会長の最後の公式メッセージを聞ける貴重な機会でもあります。メッセージの詳細は後述いたします。

14日の夜は“地区ナイト”を開催し、2840地区から100名ものご参加をいただきました。私が普段から皆様にお話しているとおり、普段地区内で顔を合わせている方々も、旅先で時間を共有することにより、より一層の親近感を持っていただけたと感じています。

6月15日: ゴルフとハブニングを乗り越えた高崎北RCナイト

15日は国際大会行事には参加せず、高崎北ロータリークラブの仲間とゴルフに行ってきました。台北市内から40分ほどの「ミラマーゴルフカントリークラブ」です。台湾には10回ほど行っていますが、ゴルフをしたのは初めてでした。全員がレンタルクラブだったため、キャディーさんが数本のアイアンを持って皆で使い回すという、キャディーにとっては極めて効率的なプレーを体験しました。

夜は“高崎北ロータリークラブナイト”でした。予約の日付けが違ってお店が休みというアクシデントがありましたが、幹事の機転で別のお店に飛び込み、事なきを得ました。田中 PG ご夫妻にもご参加いただきましたが、ご満足いただけたようで安堵いたしました。

6月16日: 本会議プログラムと合同パーティー

16日は、ホルガー・クナーク財団管理委員長のお話を聞くため、本会議のプログラムに参加しまし

た。こちららも詳細は後述いたします。

その夜は、高崎北ロータリークラブの友好クラブである台北首都ロータリークラブが所属する、3521・3522・3523 地区合同の「海外友好クラブ合同パーティー」に高崎北のメンバーと参加しました。1,000 名近くの大きなパーティーでしたが、3521 地区の James 同期ガバナーと旧交を温め、イタリア 2090 地区の Stefano Clementoni パストガバナーという新たな友人ができました。James ガバナーからは、2840 地区との地区同士の交流を働きかけられています。

6月17日：感動の閉会式

17日は“閉会式”です。昨年のカルガリー国際大会でのステファニー・A・アーチック会長の最後の点鐘の場面が印象深く、フランチェスコ・アレツォ会長はどのような点鐘をされ、最後にどのようなお言葉を述べられるのかに強い興味がありました。

アーチック会長は何も語らず静かに点鐘されましたが、アレツォ会長は、「インカ（ババロラ会長エレクト）、もう1年やってもいいよ」とジョークを言われ、会場が温かい笑いに包まれながら明るく点鐘されました。

国際大会を振り返って

国際大会への参加は今回で4回目でした。RI 会長のスピーチだけでなく、大会での経験は、参加するときの自分の立場や役職によって、感じ方が全く違うと実感しました。何かを得たい、何かを得ようと思って臨んでいたときもありますが、自然と自分自身にしみ込んでくるときもあるように感じています。

これからは、開会式でのフランチェスコ・アレツォ会長、ホルガー・クナーク財団管理委員長、閉会式でのオンラインカ・ハキーム・ババロラ会長エレクトのメッセージをお伝えします。※全文の対訳もありますので、ご希望の方は私（takenaka@tkn-com.co.jp）までご連絡ください。

—— 各リーダーからのメッセージ ——

1. フランチェスコ・アレツォRI会長（開会式メッセージ）

アレツォ会長は、演説の中で5つの重要ポイントを強調されました。

①「チームとしてのロータリー」

会長は何度も「Not because of one person, but because we were a team.（一人の力ではなく、私たちがチームだからこそできた）」と述べられました。ロータリーは個人の功績ではなく、会員一人ひとりの協力によって成り立つ組織であることを強調しています。

②「ポリオ根絶はまだ終わっていない」

演説の中で最も感情がこもっていた部分です。ポリオを発症した少女に出会ったときの「If only we had reached her sooner.（もしもっと早く彼女に届いていたなら）」という言葉は、ポリオ根絶が単なる事業ではなく、子どもたちの未来を守る約束であることを示しています。

③「平和は奉仕活動から生まれる」

平和は政治家や外交官だけがつくるものではありません。地域社会を健康にし、教育を充実させ、希望を生み出すことが平和につながる。これはロータリーの平和構築の考え方を端的に表しています。

④「それこそがロータリーです」

演説最大のメッセージです。

「We stand beside the community. (私たちは地域社会の隣に立つ)」

「We help it find what it can do for itself. (その地域が自らできることを見つける手助けをする)」奉仕の本質を示す非常に重要な部分です。

⑤「夢を持つこと」

会長年度テーマである“Unite for Good”の精神にも通じますが、最後に語ったのは「夢」でした。

「Rotary needs dreams. (ロータリーには夢が必要です)」夢とは現実逃避ではなく、人々を行動に導く力であり、困難な時代に希望を与える力である。これが演説の締めくくりでした。

【アレツォ会長の核心メッセージ】

「ロータリーは地域社会の問題を代わりに解決する組織ではなく、人々が自ら未来を切り開く力を引き出す組織である。」

2. ホルガー・クナークロータリー財団管理委員長(講演)

クナーク財団委員長からの呼びかけは、「Together, We Create Lasting Change (共に、永続的な変化を創り出す)」でした。アーチ・クランフが1917年に提唱した「力を合わせることでより大きな成果を生み出せる」という理念は、今日のロータリー財団活動の原点であり続けている、という内容でした。

①ロータリー財団は会員自身の財団

地区補助金やグローバル補助金を通じて、資金の活用は地区やクラブが主体となって決定しています。財団は本部のものではなく、ロータリアン一人ひとりの財団です。

②成果はエビデンスで示されている

母子保健、水と衛生、教育、環境、疾病予防などの事業は、明確な成果測定と評価に基づいて実施されています。ロータリー財団は世界的にも高い評価を受ける公益財団として信頼を築いています。

③ Programs of Scaleによる社会的インパクトの拡大

ザンビアのマラリア対策をはじめ、ナイジェリア、エジプト、インド、コロンビアで大規模事業を展開。2026年はハイチの水・衛生事業が新たに採択されました。

④ポリオ根絶への継続的な取り組み

1985年以来、2,000万人以上の子どもたちがポリオによる麻痺から守られました。根絶達成まで、ロータリーは世界的なパートナーとともに活動を継続します。

⑤ Every Rotarian, Every Year

財団活動の基盤は、すべてのロータリアンが毎年寄付に参加することです。寄付だけでなく、財団の成果を語り、その価値を広めることも重要な役割です。

【クナーク委員長の核心メッセージ】

「皆さん自身がロータリー財団です。」ロータリー財団の成果は、世界中のロータリアンの寄付と奉仕によって支えられています。一人ひとりが財団の価値を伝えるアンバサダーとなり、共により大きな変化を生み出していくことが求められています。

3. オンラインカ・ハキーム・ババロラRI会長エレクト(閉会式メッセージ)

ババロラ RI 会長エレクトは、「Create Lasting Impact (永続するインパクトを創る)」をテーマに掲げ、ロータリーは単なる奉仕団体ではなく、人々の人生を変える変革の体験であると訴えました。

自身が若いローターアクター時代に参加した識字教育プロジェクトで、一人の女性が初めて自分の名前を読めた瞬間を目にした経験を紹介。その出来事が「機会を与えられる側」から「機会を他者に広げる責任を持つ側」へと自分を変えたと語りました。

また、平和は奉仕活動の副産物ではなく、意図的に築かなければならないものであると強調。2030 年までの会員 125 万人・ローターアクター 12 万 5 千人という目標達成に向け、「クラブの過去最高の会員増強実績を見つけ、その最高を超えてほしい」と会員増強への挑戦を促しました。

スピーチ全体を通して、「私たちは途切れることのない鎖 (Unbroken Chain) の一部であり、次世代へ新たな輪をつないでいく責任がある」というメッセージが貫かれていました。

①「ロータリーは人を変える」

「ロータリーは何をしたかではなく、誰を変えたか。」奉仕の成果だけでなく、奉仕によって会員自身が成長し変化することを重視しています。

②「Create Lasting Impact」の本当の意味

従来の「何件実施したか」「何人参加したか」ではなく、「何が変わったか、その変化は続くのか」を問う考え方で。

③「平和を意図的に築く」

青少年育成、地域社会との対話、国際交流、DEI への取り組みもすべて平和構築につながります。クラブ活動の中で「この事業は平和につながるか」という視点を持つことが求められています。

④ポリオ根絶への最後の挑戦

資金不足や国際情勢の変化があっても、「今こそロータリーが揺るがず立つべき時」という強いメッセージが込められています。

⑤「途切れることのない鎖 (Unbroken Chain)」

過去のロータリアンが築いてきた奉仕の歴史を受け継ぎ、現在の私たちが次世代へつなぐ。会員増強も、未来へ新たな輪をつなぐ行為として位置付けられています。

【最も印象的な一文】

Find your best year. Then do better than your best.

「あなたのクラブの最高の年を見つけてください。そして、その最高を超えてください。」これは単なる会員増強の呼びかけではなく、『過去の成功に満足せず、ロータリーの新しい可能性に挑戦しよう』という 2026-27 年度全体への強いメッセージです。

サプライズの個人表彰と、最高の「ロータリーモーメント」

17日の閉会式前に、フランチェスコ・アレツォ会長から個人的に表彰されました。

これは、3月から6月までに地区内に新クラブを設立したガバナーに対してのものでした。私の場合は、私の努力ではなく、偶然その期間に新クラブが認証されたというだけで、私にとっては正に「僥倖」でした。

国際大会前にどこかのタイミングで伝達されるという連絡があり、お会いした時の会話の想定問答を考えていました。すると、私のパートナーが「アレツォ会長はイタリアの方なのだから、イタリア語で話しかけたら？」とハードルを上げるようなことを言ってきました。

まずは最初の呼びかけからつまづきましたが、何とかイタリア語と英語で組み立てたのが次の通りです。



(昨年のロータリー研究会にて)

【想定していたスピーチ内容】

(イタリア語で)

Buongiorno, piacere di conoscerla.

(こんにちは。お会いできてうれしいです。)

Cavaliere Presidente Francesco Arezzo, grazie di cuore. Le sono profondamente grato.

(フランチェスコ・アレツォ会長、心からありがとうございます。深く感謝しております。)

(ここからは英語で)

This is the best I can do in Italian.

(イタリア語ではこれが精一杯です。)

It is a great honor for me to receive this recognition directly from President Francesco Arezzo.

(アレツォ会長から直接表彰されることを光栄に思います。)

This recognition from President Arezzo is a great inspiration to me. I will continue to do my best as Governor for the growth and development of Rotary.

(アレツォ会長からいただいた表彰を励みに、来年度もガバナーとして、ロータリーの発展に尽力します。)

This is truly my Rotary Moment.

(今がまさに私のロータリーモーメントです。)

(最後は再びイタリア語で)

Grazie di cuore.

完璧な流れを用意していました。

……しかし、私が「ボンジョルノ」と呼びかけた途端、アレツォ会長は英語で親しみ深く話しかけてくださり、私が用意した話を挟む間を与えてくれませんでした(笑)。

記念にアレツォ会長のサインの入ったネクタイとスカーフをいただき、お互いに慣れない英語で話をしました。会議室の外のロビーで15分程度でしたが、会長パートナーのアナ・マリアさんと私のパートナー純子の4人きりでの温かい時間を過ごさせていただきました。

日本からお持ちしたお土産の「香合（こうごう）」をお渡しすると、その場で包装を開けられ、奥様と一緒に大変喜んでくださいました。会話や振る舞いの端々から、アレツォ会長の飾らない、人懐っこいお人柄が伝わってきました。

ちなみに「Cavaliere（カバリエーレ）」とは、アレツォ会長のマルタ騎士団ナイトの称号に対する敬意を込めた敬称です。アレツォ会長ご本人は気づかれませんでしたでしたが、会話の途中で私が「Cavaliere Presidente」と呼びかけたとき、アナ・マリアさんがニコッと微笑んでくれたのがとても嬉しかったです。

アレツォ会長の出身クラブであるシチリアの「ラグーザロータリークラブ」へ2025-26年度中にメイクアップできなかったお詫びと、2026-27年度後半には必ず伺わせていただくという約束を交わし、会長は閉会式へと足早に向かわれました。

アレツォ会長と過ごしたあのひと時こそが「ロータリーモーメント」になると思っていたのですが、今振り返れば、お話しする内容を真剣に考え、慣れないイタリア語を何度も練習した数日間も含めて、すべてが私の大切なロータリーモーメントだったのだと感じます。

何より、私が「ボンジョルノ」と呼びかけた直後、アレツォ会長が「I met you in Japan!」と笑顔で近づき、固い握手を求めてくださったあの瞬間が、最も感激した瞬間でした。

全てが心に深く刻まれる、素晴らしい経験をさせていただきました。



表紙説明

タイトル：横川の先を渡るデキと温泉

作者：中島 徹



作者の中島さんは、立体作品も多く作成する多作な方。
この作品は電車が大好きな徹さんが、想像で書いた横川です。

高崎市本町にある NPO 法人工房あかねが運営する障害福祉事業所「アトリエ ART・ON」では、利用者が自由に自己表現を楽しみながら創作活動に取り組んでいます。絵画や工作、刺繍など、スタッフと共に多彩な制作を行い、その成果は展示会への出展やアートグッズとしての展開など、さまざまな形で発信されています。

ガバナー事務所よりお願い

■ガバナー月信に関して

- ・原稿の締め切りは、毎月 15 日です。ワードまたはエクセル書式で作成の上、メール添付し竹中隆ガバナー事務所（takenaka@rid2840.jp）まで送信してください。なお、写真等の画像がある場合は、デジタルデータでお送りください。
- ・新会員情報並びに訃報の締め切りは、毎月 15 日です。（15 日以降のご連絡分につきましては、次月号の掲載となります。）新会員につきましては氏名、入会日、職業分類、勤務先、役職、推薦者氏名を記入の上、写真を添えて、ガバナー事務所ホームページの専用欄かメールにてお送りください。なお、訃報につきましてはクラブ会長様に 250 字以内で追悼文を作成いただき、ご連絡をお願いいたします。

■ガバナー事務所に関して

- ・ガバナー事務所の開所時間は従前どおり午前 10 時から午後 5 時となっておりますのでよろしくお願いいたします。尚、原則として正午から午後 1 時までには昼休みとなっております。

■月信への寄稿のお願い

- ・毎月 1 日に発刊しているガバナー月信ですが、是非とも第 2840 地区の各クラブで行われた奉仕事業やクラブの自慢などを、月信に寄稿してみませんか？
原稿締め切りは毎月 15 日になります。原稿を 15 日以前にガバナー事務所宛にメールしていただければ翌月号に掲載させていただきます



竹中 隆 ガバナー事務所

〒 371-0855 群馬県前橋市問屋町 2-2 前橋問屋センター会館 1F
TEL: 027-212-2840 FAX: 027-212-2841